

平成24年度 社会福祉法人いいたて福社会事業報告書

1. 基本方針について

本会の経営及び運営については、原発事故関係の賠償があっても、入金されるのは年度を越すため収支の状況は厳しいものであった。

また、法人全体の職員も退職が続いているなかで、現状を維持するだけでも同様に大変な状況であった。

しかし、そうした状況にあっても、法人役員として定期的な理事会・評議員会・監事会を開催し、慎重審議を重ねより良い方向性を打ち出し、安定した基盤づくりに努めてきたことで継続運営ができた。

2. 事業内容

(1) 理事会の開催状況

回数	開催日	出席(人)		内 容
		理事	監事	
第1回	平成24年 5月29日	5	2	報告第1号 平成23年度第5回理事会議事録の確認について 議案第1号 平成23年度社会福祉法人いいたて福社会事業報告について 議案第2号 平成23年度社会福祉法人いいたて福社会一般会計収支決算について 議案第3号 社会福祉法人いいたて福社会評議員の選任について
第2回	7月28日	6	2	報告第1号 平成24年度第1回理事会議事録の確認について 議案第1号 社会福祉法人いいたて福社会に就業する職員の就業時間等に関する細則の一部変更について 議案第2号 社会福祉法人いいたて福社会自家用自動車使用の出張に関する取扱要綱の一部変更について 議案第3号 社会福祉法人いいたて福社会評議員の選任について 議案第4号 社会福祉法人いいたて福社会の理事長の選任について
第3回	平成25年 2月7日	5	2	報告第1号 平成24年度第2回理事会議事録の確認について 報告第2号 諸事業報告について 議案第1号 平成24年度特別養護老人ホームいいたてホーム施設会計補正予算について 議案第2号 平成24年度やまゆり保育所会計補正予算について 議案第3号 社会福祉法人いいたて福社会給与規則の一部変更について 議案第4号 社会福祉法人いいたて福社会給与規則に臨時加給金を設けることについて 議案第5号 社会福祉法人いいたて福社会臨時雇用職員管理規則に臨時加給金を設けることについて
第4回	3月25日	7	2	報告第1号 平成24年度第3回理事会議事録の確認について 議案第1号 平成24年度特別養護老人ホームいいたてホーム施設会計補正予算について 議案第2号 平成24年度やまゆり保育所会計補正予算について 議案第3号 社会福祉法人いいたて福社会臨時雇用職員管理規則の変更について 議案第4号 平成25年度社会福祉法人いいたて福社会事業計画(案)について 議案第5号 平成25年度社会福祉法人いいたて福社会一般会計収支予算(案)について 議案第6号 特別養護老人ホームいいたてホーム設備機器保守点検委託契約の締結について 議案第7号 社会福祉法人いいたて福社会評議員の選任について 議案第8号 社会福祉法人いいたて福社会就業規則の一部変更について

(2) 評議員会の開催状況

回数	開催日	出席(人)		内 容
		評議員	監事	
第1回	平成24年 5月29日	10	2	報告第1号 平成23年度第4回評議員会議事録の確認について 議案第1号 平成23年度社会福祉法人いいたて福祉会事業報告について 議案第2号 平成23年度社会福祉法人いいたて福祉会一般会計収支決算について 議案第3号 社会福祉法人いいたて福祉会理事の選任について
第2回	7月28日	11	0	報告第1号 平成24年度第1回評議員会議事録の確認について 議案第1号 社会福祉法人いいたて福祉会の理事の選任について 議案第2号 社会福祉法人いいたて福祉会の監事の選任について 議案第3号 社会福祉法人いいたて福祉会に就業する職員の就業時間等に関する細則の一部変更について 議案第4号 社会福祉法人いいたて福祉会自家用自動車使用の出張に関する取扱要綱の一部変更について
第3回	平成25年 2月7日	11	2	報告第1号 平成24年度第2回評議員会議事録の確認について 報告第2号 諸事業報告について 議案第1号 平成24年度特別養護老人ホームいいたてホーム施設会計補正予算について 議案第2号 平成24年度やまゆり保育所会計補正予算について 議案第3号 社会福祉法人いいたて福祉会給与規則の一部変更について 議案第4号 社会福祉法人いいたて福祉会給与規則に臨時加給金を設けることについて 議案第5号 社会福祉法人いいたて福祉会臨時雇用職員管理規則に臨時加給金を設けることについて
第4回	3月25日	12	2	報告第1号 平成24年度第3回評議員会議事録の確認について 議案第1号 平成24年度特別養護老人ホームいいたてホーム施設会計補正予算について 議案第2号 平成24年度やまゆり保育所会計補正予算について 議案第3号 社会福祉法人いいたて福祉会臨時雇用職員管理規則の変更について 議案第4号 平成25年度社会福祉法人いいたて福祉会事業計画(案)について 議案第5号 平成25年度社会福祉法人いいたて福祉会一般会計収支予算(案)について 議案第6号 特別養護老人ホームいいたてホーム設備機器保守点検委託契約の締結について 議案第7号 社会福祉法人いいたて福祉会就業規則の一部変更について

(3) 監事会の開催状況

開催日	出席(人)	内 容
平成24年 5月24日	監事 2名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成23年度社会福祉法人いいたて福祉会事業報告について</li> <li>・平成23年度社会福祉法人いいたて福祉会一般会計収支決算について</li> <li>・理事会及び評議員会議事録について</li> </ul>

## 1. 基本方針について

今、置かれている困難な状況下に於いても、“利用者主体のケアの継続”を第一と考え、関連する職員の連携により、「心身のケア・生活の場となる環境づくり・後悔しないケア（看取り）」に取り組むことができました。

また、職員が放射能や遠距離通勤等の問題により、業務継続への不安と葛藤を抱えるなか、その負担を少しでも軽減できるよう、限られた人員でできる業務の見直しや、放射線量の影響等についての勉強会等を行ってきました。

震災から2年、職員も激減し、人員の問題から平成24年5月に北棟閉鎖、3ユニットを減らすことで、何とか職員を配置することができました。しかし、東棟では1ユニット13～15名のご利用者を、早番・遅番の2名体制でケアに当たってきたことは、充実したケアができていたとは言えなかったかも知れません。

毎月のように職員数が減っていく中で、ケアの質を落とさず、如何に今までのケアを継続できるか、日々の業務を幾度となく見直す毎日が続きました。

職員間でも、正直、勤務継続についての不安は予想以上に大きく、様々な意見も多々ありました。しかし、今まで築き上げてきた「いいたてホームならではの“寄り添うケア・利用者本位のケア”を無くしてはならないとの強い想いと使命感、また、ご利用者の“笑顔”にも支えられ、何よりも共感できる仲間（職員）がいたからこそ、今まで継続できたのかも知れません。

## 2. 具体的施策について

### （1）生活環境づくり

原発事故問題により、外出や換気ができない状況から、室内だけの生活となってしまい、メンタルケアが特に必要と感じました。（今まであたり前のように行っていた換気や、寒暖を肌で感じて頂いていた外気浴もできなくなり、季節感や刺激が何時もより少ない環境だったかと。）しかし、様々な工夫を凝らしチャレンジもしてきたことから少しは楽しく過ごせたのではないかと思います。

#### ① レクリエーション

生活にメリハリと楽しみを見出すため、レクリエーションの充実に取り組みました。（職員不足でしたが、その中でもレクリエーションを毎日短時間（11:00～11:30）ではあるもののスタッフの協力体制を確保しながら、年間を通し行ってきました。また、カラオケを利用したダンスは、利用者の楽しみとなり、少しずつですが、1年前とは違った活気が見えてきました。）

#### ② 音楽療法

週1回、担当医が診察後に行き届けるカラオケは、待ち遠しいものとなっています。（以前は聞く側となっていた方が、今では大きな声で歌う側となり、声を出すことで身体機能への維持向上に繋がっています。）

#### ③ 行事

年間通じ、季節毎の行事やご家族との交流を深める行事は、今年も継続することができました。

このような現況から、行事を普段の業務に組み込むことは、限られた人員のなかで実施することは並大抵のものではありませんでした。勿論、ご利用者や職員も負担にならないように特に注意を払いました。（安全に施行することが大前提であるため）

しかし、行事当日となると職員のマンパワーを感じずにはいられませんでした。そ

れは、やればいいという気持ちではなく、定時出勤よりも前に出勤し、ご利用者の身支度や会場準備等は勿論、行事に披露するダンスの練習や仮装等、ご利用者と一緒に楽しめるようにと頑張ってきました。結果、当日面会に来られた方から、「ここだけは、震災や原発の事故が感じられない場所だね」と微笑まれて行かれました。

それが全てだと思いました。

## (2) 寄り添うケア

### ① 重度化される利用者のケア

「昨年からすると・・・」との話が聞かれますが、年々、体力や機能の低下により、介護度も重度化となってきたことは事実です。2年前までは経管栄養者が10名程度でしたが、どんなに経口摂取ケアを行っても、上記理由等により現状を維持することは難しく、経管栄養者は20名となっています。

経管栄養となることで、ベッド上での生活が主となり、居室で過ごすことが多くなってきています。こう云った方にも孤独を感じさせないように、声掛けを多くしたり、ベッド上では安楽な体位にすることに細心の注意を払ってきました。

### ② 認知症のケア

少しでも自分らしく過ごして頂くため、各家でケア会議の場を持ち、看護師との連携のもと進行を遅らせるケアと居場所づくりに努めてきました。

(周囲の影響から、不安な気持ちになり帰宅願望をだされる方、また、職員が減って行くのを見ていることから、大丈夫なのかと言葉にされる方、そして繰り返された職員異動による環境の変化に戸惑うこともあり、ご利用者も職員もお互いにストレスとを感じる場面もあったようです。)

### ③ 看取りについて

まず、最期までホームの生活を望んで下さったことに感謝したいと思っています。

普段通りの生活から急に体調を崩し亡くなられた方、徐々に最期の時を迎えられた方等、様々でしたが、職員の意識には「後悔したくない」ケアを続けてきました。

看取りは、ご家族との繋がりがとても大切であり、終末期にはご家族の方々に泊って頂く等、少しでも一緒の時間を過ごして頂きたく支援をしてきました。

また、ケアの一環として、夜間帯の巡回頻度を多くしました。これは職員からですが、一人寂しく息を引き取らせたくないとの強い思いからでした。

この看取りが可能となるのは、医師、看護師の大きな支えが必要なことは基より、介護職員の想いが詰まっていることから、このような状況の中でも、看取りができたのだと思います。

## (3) ケアの充実

### ① 委員会の再活動

震災及び原発事故から2年が過ぎ、「震災だから」と甘んずることを捨て、いい家でホームらしさを継続するため、各委員会の活動を再開しました。

各委員会では、各分野から見えるマンネリ化している部分を見直し、また、現状の課題を取り上げ、介護技術の向上や意識の向上を図ってきました。

○年間レク実績表

月日	内容	参加人数	月日	内容	参加人数	月日	内容	参加人数
4. 1	カラオケ	22	8. 2	夏祭りレクダンス練習	20	11.22	風船バレー	15
2	ボール遊び	26	3	夏祭りレクダンス練習	22	23	風船バレー	17
5	ボール投げ	19	4	夏祭りレクダンスの練習	12	24	風船バレー	17
7	魚釣りゲーム	6	5	夏まつり開催	90	26	風船バレー	16
9	棒体操	22	6	風船バレー	21	27	輪投げ	17
12	ボール投げ・歌	22	7	風船バレー	22	29	輪投げ	20
16	かごへのボール入れ	21	8	風船バレー	25	12. 3	的当てゲーム	21
26	ボール遊び	21	9	風船バレー	18	4	的当てゲーム	16
30	かごへのボール入れ	22	10	風船バレー	23	5	的当てゲーム	21
5. 2	ボール遊び	20	11	風船バレー	14	6	的当てゲーム	15
3	的当てゲーム	15	13	レクダンス	21	7	的当てゲーム	22
4	魚釣りゲーム	15	14	風船バレー	17	8	的当てゲーム	16
5	魚釣りゲーム	16	17	風船バレー	22	10	合唱	23
6	指・下肢の体操	11	18	風船バレー	17	11	合唱	14
7	的当てゲーム	20	20	玉入れ・レクダンス	23	12	合唱	25
8	ボーリング	8	21	玉入れ・レクダンス	21	15	風船バレー	13
9	的当てゲーム	14	22	玉入れ・レクダンス	24	17	風船バレー	21
10	早口言葉、手足の運動	15	23	玉入れ・棒体操	16	18	風船バレー	17
11	曲に合わせた手足運動	21	25	玉入れ・口腔体操	18	19	風船バレー	18
12	輪投げ玉リレー	7	27	風船たたき	18	20	風船バレー	14
13	的当てゲーム	23	29	玉入れ・レクダンス	20	21	各家で風船バレー	12
14	曲に合わせた手足運動	26	30	玉入れ・口腔体操	18	22	風船バレー	12
15	ボール渡し	17	9. 1	風船バレー	16	25	クリスマスソング	22
16	レクダンス、口腔体操	23	3	ソフトボール蹴り	23	26	レクダンス	22
17	クーパー、体操ほか	19	4	輪投げ	20	29	合唱	17
18	レクダンス、口腔体操	25	5	ソフトボール蹴り	21	31	レク体操・口腔体操	20
20	風船バレー	20	6	レクダンス3曲	17	1. 1	ふうせんバレー	16
21	ボールを使ったレク	24	7	ソフトボール蹴り	20	3	かき初め	17
23	風船バレー	20	8	ソフトボール蹴り	16	4	かき初め	10
24	風船バレー	17	10	風船玉入れ	21	5	風船バレー	18
26	レクダンス、口腔体操	24	11	風船バレー	18	7	風船バレー	22
27	風船バレー	20	12	風船バレー	20	8	風船バレー	17
28	風船バレー	13	13	風船バレー	17	9	風船バレー	15
29	風船バレー	19	14	風船玉入れ	16	11	風船バレー	20
31	風船バレー	17	15	風船玉入れ	21	13	童謡を合唱しました	23
6. 1	風船バレー 食前体操	22	18	風船はたはた	18	14	的当てゲーム	23
2	風船バレー	15	19	風船バレー	24	16	的当てゲーム	21
3	そらまめの殻とり	7	20	風船バレー	17	17	的当てゲーム	17
4	風船バタバタ	22	21	風船はたはた	22	19	的当てゲーム	17
5	風船バタバタ	9	22	風船バレー	15	21	各家で輪投げ	11
6	風船バレー	21	24	的当てゲーム	22	22	各家で輪投げ	9
7	風船バレー	11	25	的当てゲーム	21	23	各家でバタカラ声出	20
8	風船バレー	24	26	ふうせんはたはた	20	24	各家でバタカラ声出	15
9	ビーチボール投げ	15	27	的当てゲーム	16	25	各家でバタカラの歌	26
10	各家で食前体操	27	28	的当てゲーム	21	26	各家でバタカラの歌	13
11	歌体操	27	29	的当てゲーム	16	28	各家でバタカラの歌	19
12	風船バレー	18	10. 1	スーパーボーリング	22	29	各家でバタカラの歌	12
13	レクダンス各種	22	2	スーパーボーリング	18	30	早口言葉、バタカラ	24
14	風船はたはた	16	3	スーパーボーリング	24	31	早口言葉、バタカラ	17
15	風船はたはた	24	4	スーパーボーリング	20	2. 1	早口言葉、バタカラ	17
16	手足の体操	15	5	スーパーボーリング	21	2	早口言葉、バタカラ	10
18	肩たたきゲーム	26	6	スーパーボーリング	14	3	風船バレー	16
19	風船バレー	17	8	唱歌	24	5	風船バレー	12
21	風船バレー	17	9	唱歌	11	6	風船バレー	22
22	風船バレー	23	10	合唱	25	7	風船バレー	13
23	口腔体操、レク体操	19	11	風船バレー	15	8	風船投げ	23
24	風船バレー・的当て	20	12	風船バレー	23	9	風船バレー	13
25	風船バレー・的当て	6	13	風船バレー	15	11	輪投げ	19
26	的当てゲーム	20	15	歌体操	27	12	レクダンス、口腔体操	15
27	的当てゲーム	22	16	歌体操	18	13	リズム体操	20
28	的当てゲーム	17	18	合唱・歌体操	14	14	輪投げ	14
29	的当てゲーム	21	19	レクダンス	22	15	輪投げ・早口言葉	16
30	的当てゲーム	25	20	レクダンス	13	16	輪投げ・早口言葉	13
7. 2	的当てゲーム	19	22	運動会用レクダンス	21	20	リズム体操	19
3	風船バレー	22	23	合唱・レクダンス	14	21	各家でバタカラ	15
4	風船バレー	23	24	合唱・レクダンス	23	26	風船バレー	13
5	玉入れ	21	25	合唱・レクダンス	10	27	風船バレー	20
6	お手玉遊び口腔体操	28	26	合唱・レクダンス	21	28	風船バレー	16
7	玉入れ・レクダンス	20	27	風船バレー・レクダンス	14	3. 2	風船バレーリズム体操	13
9	各家で口腔体操他	23	29	合唱・レクダンス	22	4	風船バレーリズム体操	19
10	風船バレー	22	30	合唱・レクダンス	14	5	玉入れ	16
12	風船バレー	21	31	玉入れ、	20	6	風船バレーリズム体操	11
13	風船遊び	21	11. 1	玉入れ、	19	8	各家で風船バレー	20
14	風船はたはた	24	2	運動会練習玉入れ	26	9	風船バレーリズム体操	15
16	輪投げ	26	3	運動会練習玉入れ	18	13	風船バレーリズム体操	21
17	輪投げ	20	6	風船バレー・レクダンス	15	14	的当てゲーム	14
18	輪投げ	25	7	風船バレー・レクダンス	22	15	的当てゲーム	24
19	風船バレー	10	8	風船バレー	18	16	的当てゲーム	11
20	輪投げ	23	9	風船バレー	27	18	的当てゲーム	15
21	ホ：マジックショー	41	10	風船バレー	16	19	玉入れ	17
22	夏祭りの練習	19	12	的当てゲーム	19	20	玉入れ	17
23	風船バレー・レクダンス	21	14	的当てゲーム	20	21	玉入れ	18
24	ボール入れ	21	15	的当てゲーム	16	22	玉入れ	24
25	夏祭りの練習	24	16	的当てゲーム	21	26	バタカラの口腔体操	19
28	夏祭りの練習	26	17	的当てゲーム	14	27	バタカラの口腔体操	21
29	夏祭りの練習	18	19	風船はたはた	22	28	バタカラの口腔体操	15
30	夏祭りの練習	25	20	風船バレー	13	29	バタカラの口腔体操	18
31	夏祭りレクダンス練習	28	21	風船バレー	19	30	バタカラの口腔体操	14
合 計		264日実施	延べ参加者5,012名		一回の平均参加者19名			

○職員会議

月日	議 題 ・ 内 容
4.25	各家の取り組み、厨房会議報告
5.30	各家の取り組み、厨房会議報告、各委員会より、研修報告「平成24年度東北ブロック老人福祉大会」
6.28	各家の取り組み、厨房会議報告、職員の健康管理について（厚生省 DMAT事務局）、各委員会より・お風呂の日について
7.26	各家の取り組み、厨房会議報告、各委員会より、研修報告「老人福祉施設職員研修Ⅰ」・「老人福祉施設職員研修Ⅱ」・「社会福祉従事者 新任職員研修」
8.30	各家の取り組み、厨房会議報告、各委員会より、研修報告「Uビジョン研究所の介護セミナー「記録」・「リスクマネジメント研修」・「介護食を考える～リスク管理と食事～」・「医療管理講演会」
9.27	各家の取り組み、厨房会議報告、各委員会、研修報告「平成24年度東北ブロック老人施設研究会」・「平成24年度社会福祉施設指導的職員研修」
10.25	各家の取り組み、厨房会議報告、各委員会より、研修報告「認知高齢者の心理、行動の理解と対応」「カントリーミーティング」・「平成24年度 社会福祉施設栄養士研修」・「平成24年度 福島県特養連 給食担当者研修会」
11.29	各家の取り組み、厨房会議報告、各委員会より、研修報告「全国老人福祉施設大会 広島大会」・「摂食・嚥下障害患者への口腔ケア」、「介護員（4年未満）研修会」
12.20	各家の取り組み、厨房会議報告、各委員会より、研修報告「高齢者施設の大規模災害対策セミナー」・「平成24年度相双地区集団給食研究会第2回研修会」、なんでも勉強会 医務編「冷え性とは」について、介護編「いいたてホーム ケア基本」について
1.31	各家の取り組み厨房会議報告、各委員会より、研修報告「介護職員（4年以上）研修会」
2.28	各家の取り組み、厨房会議報告、各委員会より、合同避難訓練について
3.28	各家の取り組みと1年間の生活報告、厨房会議報告、各委員会より事業報告

② 家長会議

各家（ユニット）の家長が、現状の業務や勤務体制を見直す検討の場となりました。

直面した問題に、現場レベルで話し合うことは具体的なものであり、改善に繋がりました。また、気持ちが折れそうになった職員への励ましの時間でもありました。

開催日	内 容	開催日	内 容
4.4	・北棟の閉鎖と利用者の居室移動について ・勤務体制について	10.18	・芋煮会について ・日勤業務について
5.31	・派遣職員について ・介護・福祉用具の使用把握	11.27	・業務の見直し ・年末・年始の行事について
6.27	・夏祭りについて	1.15	・業務の見直しについて ・次年度事業計画について ・行事について
7.24	・職員の把握、業務内容について ・研修報告「老人福祉施設職員研修」 「ケアの質を高める記録セミナー」	2.22	・事業報告について ・業務の見直しについて ・感染予防対策について
8.28	・敬老会について ・ケース記録について	3.26	・新年度へ向けての職員の意識について ・職員の配置について
9.20	・業務の見直しについて ・行事について		

## ○行事

開催日	参加者	行 事	内 容
5.2	10名	花見ドライブ	大雷神社方面へ、リフト車で桜の花見に出掛ける。(花見をしながら、ご利用者の自宅方面へもドライブしてきました。)
5.22 25	19名 16名	外食ドライブ	ジャスモール(原町区)へ買い物兼ね外食をする。外食では、普段軟食やキザミ食の方も普通食を食べる等大変喜ばれていました。
6.15	西棟 全員	柏もちづくり	西棟にて、ご利用者と一緒に柏餅を作る。(柏の葉を提供して頂き、それを使うことで季節を味わって頂けたと思います。)
7.3 8	全員	七夕会	各棟ホールにて、寿司桶にそうめんやキュウリ、みかんを浮かべ、七夕食事会を行う。普段と違った食事で清涼感を味わえたと思います。
7.15	18名	お風呂の日 (菖蒲の湯)	入浴委員会が中心となり、湯船に菖蒲を浮かべ、銭湯気分の雰囲気づくりをしました。湯上りには、ビールや漬物等を準備し、ゆったりと寛ぎながら交流を深められたことと思います。
8.5	全員	夏祭り	職員の催し物や、ご利用者も浴衣等に替わっての参加でした。また、はなづか太鼓の生演奏で、更に夏祭りの雰囲気となり華やかに行うことができました。
8.24 31	14名 11名	外食ドライブ	今年度2回目の外食ドライブ(原町区のジャスモールへ)。外出と外食は楽しみであり、車窓から景色を眺め気分転換にもなっていたようでした。また、買い物は時間をかけ実際に手に取って選ぶ等、とても嬉しそうでした。
9.17	全員	ホーム敬老会	外部ボランティアの受入れ対応が難しかったため、職員の催し物やカラオケでお祝いすることになりましたが、気心知れた同士の会となり、ゆったりとした時間を過ごせて頂けたと思います。
10.19 22 24 26	7名 10名 8名 9名	バスハイク	季節を感じてもらおうと、普段外出困難な方を短時間でしたがドライブに誘い出掛けました。スキヤ荒れた田畑を見ながら、複雑な心境ではありましたが、ご利用者の自宅周辺へドライブは喜ばれていました。
11.4	全員	ホーム芋煮会	ご家族の方と一緒にいも煮会を開催。ご利用者の人数が減ってしまったことで、東・西棟合同でのいも煮会となりました。おにぎりや豚汁作り等は家族会の協力を得、美味しくでき上がりました。今後も継続していきたいと思えます。
12.23	全員	クリスマス会	日赤奉仕団より、手作りのクリスマスケーキを頂き、午後から、各棟にて其々の催しでクリスマス会を楽しみました。
12.28	全員	餅つき	今年は、もち米の状態が悪くなく、上手くつき上げることができませんでした。それでも、ご利用者が杵を持ち、数回ずつ餅つきができたことは、季節を味わうことができたと思います。また、女性のご利用者もお供えの餅まるめを行いました。
1.2	全員	新年会	新年の顔合わせを各棟にて、昼食を兼ねた新年会を行いました。日頃から練習されているカラオケ等で楽しい一時を過ごしていました。
1.15	全員	だんごさし	今年は、団子の木を準備することができず竹ひごを利用しました。それでも色とりどりの団子を手慣れた手つきでまるめていました。
2.3	全員	豆まき 恵方巻づくり	年女・年男の職員と鬼の衣装を着た施設長が各家を周り、豆まきをしました。また、各棟ホールでご利用者と一緒に恵方巻作り昼食に頂きました。
3.3	全員	ひな祭り会	ご利用者にも着物を着て頂き記念写真を撮る等、女性のお祝いをしました。昼食には厨房手作りの生ちらし寿司を美味しく頬張っていました。

### ③ 一年を振り返って

震災・原発事故から2年、施設の周囲は、そのままとなっており、そこに通う職員の心情は穏やかなものではありませんでした。

放射線量は勿論、通勤も大変だと声を多く聞きました。冬期間は特に大変であり、大雪となった今年は除雪もよくしてもらえない状況にもかかわらず、早番の時間帯(7:30出勤)でも、全員が遅刻することなく2時間掛けての通勤をこなしてきました。

これらは、職員一人ひとりの仕事に対する意識の高さ、ご利用者を思う気持ち、寄り添ったケア、ここに残って勤務する使命感があったからだと思っています。

今、いる職員には、ただただ頭が下がる思いで敬意を払いたいと思います。

今後も、「笑顔」「笑い声」が聞こえるケアを継続していきたいと思っています。

## 1. 生活全般について

震災から早2年、月日は短かったような長かったような、一生懸命駆け抜けてきた2年間だったと思います。

状況は、あの当時と何も変わらないものでしたが、ケアの質は落とさずに頑張ってきました。

震災後、北棟から2名のご利用者が加わり16人体制という大家族でのスタートでした。それに伴い職員の異動もあったことから、多少落ち着かない日々もありましたが、「今やることは何か、必要なことは何か」を、常に職員同士で話し合いながらケアにあたってきました。

また、ご利用者の誕生日を如何に“思い出に残る”ものにするかを考え、その人が、どのような人生を送られてきたか等をご家族の方から聞いたり、意志疎通のできる方については、直接聞いたり、その方の希望を尊重しながら対応してきました。

お寿司の好きな方には、ご家族の方と共に相馬にある回転寿司屋でお祝いをして頂いたり、私達が、業務の合間を縫ってトッピングしたケーキを提供したり、休日を問わずホームに出てきて手作りの料理を提供してきました。とても大変なことでしたが、ご利用者の笑顔がこの大変さを吹き飛ばしてくれました。

また、日曜・木曜日のカラオケをととても楽しみにしておられ、最近は声掛けなしに自らの持ち歌を希望し大声で歌われる方や、あまり話さない方でも会話が多くなったりと、リハビリ効果やユニット間の交流にも繋がっています。

原発事故で一番困ったことは、戸外で日光浴ができないことでしたが、外食やドライブ、フットケアや貼り絵等を行なうことで気分転換になっていたようでした。

今までは、家周辺に草花を飾り季節の移り変わりを感じて頂きましたが、現在は、鉢花を求め環境作りをしています。水あげ等手入れは大変ですが、「いやー綺麗だなー」と話されているのを聞くと、私達も癒されています。

家料理は、自分の家で収穫した季節の野菜や山菜等で季節感を味わって頂きましたが、現在、このような状況により、なかなか季節を味わって頂くことはできませんでしたが、年越の際、少しでも季節を感じて頂こうと蕎麦打ちをしました。ご利用者の中で「昔やった事がある」と云う方のお手伝いを受け蕎麦を作りました。少し見栄が悪く笑ったりもしましたが、昔の正月習慣を聞きながら、皆で作りに上げたお蕎麦を「美味しいなー」と頬張り楽しい一時を過ごしました。

ご利用者は、当時の16人から、現在10人の家族になりました。これからも、家族として共に一日一日を大切に、楽しく・明るく過ごして頂けるよう環境作りに努めて行きたいと思います。

## 2. 食事について

- 食欲をそそる見た目や器等に配慮し、会話を楽しみながら食事提供をしてきました。
- 食事形態にこだわることなく食べられる食材については臨機応変に提供してきました。
- 体調変化に伴い、その都度、看護師と連携しながら食事量・水分摂取に心掛けてきました。
- 嚥下困難な方に対しては、飲み込むタイミングを把握し、また、誤嚥しないよう気を付けながら対応をしてきました。



### 3. 排泄について

- パット交換時は、洗浄・ワセリン塗布等をして皮膚トラブル防止に努めてきました。
- 随時パットの見直しを行うことで、尿臭や尿漏れの軽減を図ってきました。
- その方の排泄パターンを把握し、パット交換やトイレ介助を行ってきました。
- プライバシー保護のため、カーテンで仕切るだけでなく、居室のドアを閉める確認も怠らざるべきだったと云う反省点もあった。

### 4. 入浴について

- 入浴日の調整を行い、リラックスしながら気持ち良く入浴して頂けるよう、職員間でよく話し合いをしながら入浴の提供に繋がってきました。
- その日の気温や季節に合った衣類を、本人に伺いながら準備、調整してきました。
- 入浴剤や湯上がりローション、保湿クリームで対応することによって、皮膚掻痒予防に努めてきました。
- レベルダウンしている方に対しては、入浴方法を検討、安心・安全に入浴して頂けるよう工夫しながら提供してきました。

### 5. 行事の取り組みについて

ひな祭り・夏まつり・敬老会・餅つき等、震災前のように盛大な行事を行なうことはできませんでしたが、出勤した職員が共に協力し、精一杯の手作りの演出で楽しんで頂きました。

また、普段より少しおしゃれをして参加することで、気分転換はもとより、皆さんと交流も深まっていったようにも思います。加えて美味しい行事食も頂けたことで、楽しいひと時を過ごせたと思います。

### 6. 一年を振り返って

春の陽だまりのなか、日の光を浴びて思い切り手足をのばし深呼吸する。遠くの花塚山を眺めながら目を細める。そんなあたり前のことができなくなり、それに変わるものを模索する一年だったような気がします。

また、高齢で身体の状態が重度化することに伴い、永眠される方も増えています。このことから体調管理については、介護と看護の連携を密にし、細心の注意を払いながらケアに努めてきました。

職員の長引く避難生活の中で「これからどうなるんだろう」との不安と心配で、心が折れそうな時もありましたが、仲間同士励まし合ったり、ご利用者の“笑顔”や“なにげない一言”が、私達を支えてくれた一年でした。

## 1. 生活全般について

原発事故により、放射線量を気にしながらの生活に2年が過ち、外気に触れることもできなく、室内での生活が殆どでした。しかし、少しでも生き生きと過ごして頂くため、ご利用者さんの一人ひとりの生活パターンを把握し、なるべく楽しみや生きがいを持って生活して頂くように様々な工夫をしてきました。

新聞紙たたみや清拭、お絞りたたみ、お茶詰め等のお手伝いをして頂き、役割を作ることで生活に張りが持てたように思います。あまり言葉を発しない方に対しては、介護員が話しかけ易いように、キッチンの前や、テレビが観える場所で過ごして頂き、良い刺激を与えることで、表情も明るくなり、笑顔や発語が多く見られるようになりました。

一人ひとりの生活を把握することで、新たな発見があった時は、介護員同士の話題となり、“介護の楽しみ”を実感できたように思われます。

常に、離床されている方や、訴えのある方との関わりは、日々増えてきたように思いますが、反面、昨年課題でもあった、居室で過ごされている方との関わる時間をもう少し増やすことができれば、なお良かったと思いました。

最近、高齢に伴い体調不良の方も増えてきたため、その方の体調に合わせた生活スタイルに合わせようと、負担のかからないよう・少しでも苦痛を軽減し・安楽に過ごして頂くよう、状態把握に力を入れてきました。しかし、訴えの多い方には、感情が入り次第に言葉が荒々しくなることも多少あり、反省すると共に言葉遣いの難しさも感じました。

レクリエーションやカラオケ、アクティビティでは、介護員と一緒に楽しめる場でもあることから、なるべく参加を促したことで、楽しんで貰えることができたと思います。特に、カラオケは、色々な歌を歌えるようになり、昨年よりレパートリーが増えたように感じました。

運動や声を出すことで少しは気分転換になり、ストレスが発散できたのではないかと思います、これからも楽しく過ごせるよう工夫して行きたいと思えます。

## 2. 食事について

個々の体調を把握しながら、その人に合わせた量や好みの物を提供してきました。

昨年の課題でもありました、体重増加が見られる方については、漢方薬や量等を調節し、体重の増加を防ぐことができたと思えます。また、食事を美味しく頂くため、特に起床時からのうがいや水を飲んで頂いたり、氷を舐めて頂く等をして口腔内を綺麗にすると共に、唾液を促してきました。むせりのある方については、その人に合ったトロミを調節し、食べるペース等にも気を配りながら安全に摂取して頂くようにしてきました。これからも、安全に美味しく食べて頂けるよう工夫して行きたいと思えます。

## 3. 排泄について

換気ができないなか、排便コントロールをして行くなかで、どうしても数人の方の排便が重なり、いかにも「今、排便がありました」とフロアに臭いが立ち込めましたが、排便後、パットに塩素を振り掛けたり、新聞紙で包み処理することで、殆ど臭いがしないよう消臭対策に努めてきました。

また、排便だけでなく、尿臭のきついパットにも同様の対応をしたり、尿臭のある方には、排泄交換の回数を増やしたりと、尿臭の軽減に努めてきました。

訴えの多い方にも交換回数を多くすることで、尿臭対策とは別に、本人自身が安心し

て過ごせるようにしてきました。

随時、個々に合ったパットの見直しや排泄交換の見直しを行い、陰部や臀部の洗浄、クリーム等を塗布することで、皮膚トラブルもなく過ごせて頂けたと思います。

今まで、自立している方の排便や排尿の確認ができていませんでしたが、最低でも一日一回確認することで把握ができ、自立支援の継続に繋がりました。また、毎日、下着を交換することで、清潔に過ごして頂くことができ、これからも継続して行きたいと思いをします。

#### 4. 入浴について

その日の状態や全身等をしっかり把握し、季節や日々の気温変化にも配慮しながら、個々に合った入浴方法や時間等を考え、安全・安楽な入浴を提供してきました。また、随時、コミュニケーションを図ることで、ゆったりと、入浴を楽しんで頂くことができました。勿論、入浴後の保湿ケアにも努めることができました。

#### 5. 行事の取り組みについて

季節毎の行事は、皆さん、とても楽しみにしていたと思います。

行事を楽しんで頂くため、他の家と協力しながら取り組むことができました。特に、外出等は外気に触れる機会でもあり、とても喜ばれていたようでした。これからも、各家と協力しながら、楽しんで頂けるような行事に行きたいと思いをします。

誕生会は、ケーキにこだわらず、本人の好物を提供し、楽しくお祝いすることができました。また、少しでもご家族の方に参加して頂けるよう連絡を取り合い、ご家族の方と一緒に誕生日をお祝いし、心に残る「特別な日」を演出していきたいと思いをします。

#### 6. 一年を振り返って

昨年度同様、職員異動や居室移動等もあり、その環境に慣れるまで不安を感じることもあったように思われます。人数の変化でケアの内容も変わり、今まで、できなかったこともできるようになりましたが、継続することの大変さをひしひしと感じたことも事実です。

そうしたなかでも、その人に合ったケアができたことは、介護員として「ケアに対する質の向上に繋がった」と思っています。

今年度は、4名のご利用者とお別れがありました。お別れは何時も寂しく悲しいものです。最期の最期、その時までご家族の方の思いや、介護員の想いを大切にしながらケアにあたってきました。徐々に衰弱していく姿を見ていると、ある程度心の準備はできていますが、突然のお別れは、なかなか受け入れることができないものだと感じました。

これからも、ご利用者がストレスを感じることなく日常生活を送れるよう、職員同士の連携を密に、豊かな感性で日々のケアを大切に努めて行きたいと思いをします。

## 1. 生活全般について

一人ひとりを理解し“今、必要なケアを行う”と云う目標を掲げ、それに向い皆で取り組んできた一年間でした。

しかし、ご利用者の立場になって考えると云うことは、なかなか容易なことではないことに気付きました。(日々のニーズ変化に應えるためには、日頃の申し送りや統一したケアが大切であり、目に見えること以上に、目に見えない部分のケアがいかに大切であるかということを再認識させられました。)

また、各介護職員が、ご利用者一人ひとりを自分の目でしっかり見て、今の状態を確かめ、訴え等も自分の耳でしっかり聞いて、そして、何ができるかを考えていかなければより良いケアを提供することができないとも感じました。

今、多職種の協力があり、重度化の方からも“笑顔がこぼれる”のを見受けられることが、私達の支えとなっています。

## 2. 食事について

食欲低下の方や、口から食べることが日々困難となって行く方へのケアについては、どうしたら安全に食べられるか、そして、どうしたら満足して頂けるか、家職員・看護師・栄養士・厨房職員の協力を得、食事管理ができたと思います。

また、できるだけ自力摂取を促し、食べる意欲を損なわないよう、常に声掛けを心掛けると共に、食べ易い形態や食器の配置等にも努めてきました。

## 3. 排泄について

- 皮膚トラブルを最小限に留めるため、保湿クリームやワセリン等を使い皮膚の保護に努めてきました。排泄交換後の消臭対策も消臭剤を使用したり、汚物を新聞紙に包み処分する等、臭いの軽減にも努めてきました。
- 状態を把握し個々に合ったパットを選んで使うことができた。しかし、清拭後の対応で、湿気が残った状態でオムツやパットを掛けてしまい、皮膚トラブルになってしまったことがあり反省すべき点であった。
- 個々に合った排泄用品を使用することで、不快感を軽減することができたと思います。

## 4. 入浴について

- ご利用者の殆どが機械浴利用者です。皮膚の弱い方の摩擦による内出血や、体調不良時の入浴等、如何に安全な入浴を行うかが課題であり、細心の気配りをしてきました。
- 個々の状態に合わせた入浴形態にすることで、ゆっくりと入浴できる環境ができたと思います。
- 入浴後に保湿クリーム等を使用し、肌荒れや乾燥等の防止に努めてきました。

## 5. 行事の取り組みについて

- 季節の行事に参加して頂き楽しんでもらいました。
- バスハイクや外食に参加できた方もいたので、気分転換になり良かったと思います。
- 行事やレクリエーションに参加される方は、いつも同じだったが、満足されていたようなので良かったと思います。

## 6. 一年を振り返って

- ご利用者によく会話することにより、その日を気持ち良く過ごして貰えたのではないかと思います。また、声かけにて自力摂取を促したり、残存機能を活かしてトイレ介助をすることで、自信にも繋がったのではないかと思います。

自分で訴えることができない方でも、いろいろな方法や工夫をしてきたことで、少しずつ訴えが理解できるようになったことは、寄り添いに繋がっていったのではないかと思います。

- 放射線の影響で、なかなか思うように外気浴ができなかったため、次年度はお花見やバスハイクに多く参加して頂き、より多く気分転換ができるようにしたい。
- 原発事故等、大変な状況の中でも、ご利用者に合わせた季節の行事や入浴、夏祭り、敬老会、バスハイク、外食等ができたので良かったと思います。

また、毎日のレクリエーションや口腔体操も以前より活発にでき、今後も継続して行きたいと思います。

## 1. 生活全般について

家目標は「ご利用者の精神面や身体面を深く理解し、一人ひとりのニーズを把握し、日々の生活を穏やかに過ごして頂く」と掲げていました。

24年度は、ご利用者13名のユニットでスタートとなりましたが、途中2名の方が西棟へ転居し11名となりました。

2名の利用者さんの看取りケアをさせて頂くなか、日々の関わりで些細な変化に対する気付きや、心配りの大切さを再認識させられました。そして、ご家族の方からの労いの言葉や感謝の言葉を頂き、目頭が熱くなったことを覚えています。

また、入退院を繰り返され、ホームでもベッド上の生活を強いられるなど、精神的に辛い状況であったにも関わらず、いつも笑顔で応える利用者さんに対しても心を動かされました。

現在、9名の利用者さん全員が車椅子を使用されていますが、7名の方は車椅子を自操されています。移動の際、車椅子同士の軽い接触が日常茶飯事でもありましたが、些細なことで大声を出され、周囲を巻き込む大事になってしまったこともあります。テーブル席を決める時や、入浴する順番、テレビ番組等で利用者さんの機嫌を損ねてしまったり、帰宅願望が強くなってしまったりと、問題も次々と発生していました。

また、徐々に認知の低下も感じられるようになってきたことも明らかでした。“自分の居室が数箇所ある。居室とトイレの場所が分からなくなる。車椅子のブレーキの掛け忘れが多くなる。”等、そのことによりアクシデントが続発していました。典型的な不定愁訴も多くみられ、毎回のように家会議やケア会議の中で検討してきました。

唯一良かったと実感できるのは、徐々に信頼関係が築かれていくことによって、とても安定した日を過ごして頂くことができたと感じることができたことだと思います。そして、もう一つは、「大切な記念日」である誕生日をお祝いすることができたことです。お祝いに駆けつけて下さったご家族や、休日や夜勤明けにも関わらず駆けつけてくれた職員が、利用者さんに喜んで頂けるならと云う、思い遣りや真心を感じられることができたことは、ケアを勧めていくなかで、職員間の大きな励みと支えになっていたことと思います。

また、定期的なレクリエーションへの参加、普段の何気ない時間の会話、介護員の手伝いとして、新聞やおしぼりたたみ、時には一緒にティータイムを過ごしたりと、少しずつ利用者さんにとって顔なじみの職員として感じて頂くことができたのかも知れません。そして徐々にではあっても、頼られる介護員になることで、自らの遣り甲斐や励みを利用者さんから頂いていたのだと思います。

普段の生活の中では、利用者さんが原発事故に関しての不安は殆ど感じられなかったと思います。しかし、今後の不透明な状況に対しての不安を、職員が表面化していたことは反省点として挙げられます。

## 2. 食事・入浴・排泄について

### 1) 食事

- 個人に合った食事形態・量・嗜好を把握し、美味しく楽しい食事を摂って頂くことを目標としてきた。口から食べることの大切さを含め、無理強いを避け、食べたい時に、(食べられる時に)食べたい分だけ、(食べられる量を)を把握し、体調や栄養面を考慮しながら看護師・栄養士に相談しながらケアに繋げることができていたと思います。

- 家料理を計画的に実行することができず、毎月先送り状態になってしまったことは反省すべきことでもあった。
- 誕生会に於いては、職員の工夫を凝らしたケーキ作りや飾りつけで、とても喜んで頂くことができた。
- その日の体調や嚥下状態を確認しながら、食事形態やトロミ剤の調整を行い、介助することができた。しかし、トロミ剤や厨房の提供状態に頼ることなく、嚥下状態に合わせ、介護員が柔軟な対応を即座にできるような気遣いと配慮も必要だったと思う。

## 2) 入浴

東棟唯一、個別浴が設置してあることで、ご利用者にも喜ばれています。他の利用者さんに気兼ねなく自分のペースで入浴が行え、何よりプライバシーが確保され、マンツーマンの対応で安心して入浴して頂けることが一番の楽しみようです。このことは東棟職員の協力があってこそ継続できることだと痛感しています。

しかし、徐々に入浴介助の度合いが大きくなり、1人介助では困難な場合もあったため、機械浴への変更や、部分的に2人介助で対応させて頂くことで、安全な入浴を提供できるよう検討してきました。

## 3) 排泄

トイレでの排泄を基本として、ご利用者のプライバシーを守りながら支援を行ってききましたが、車椅子がトイレのドアに引っ掛かり介助中に半開きになってしまったり、使用中のパットを無造作に車椅子に置いてしまう等、配慮が足りなかったこともありました。皆さんがトイレでの介助を必要とする方であるため、トイレの時間が重なってしまう際には、お待たせしなければならない時が多く、場合によっては、介護員の忙しい様子を察して、1人でトイレに向かいトイレに座る際に尻もちをついてしまう等のアクシデントもありました。常に「ひと声」かけて頂くようにと説明する毎日でした。

消臭対策については、前年度より引き続きパットを1枚1枚新聞紙に包む処理を行い、失禁の際は、必ず清拭対応を継続して行ってきました。排便時の対応も統一した処理を行っていたと思います。また、看護師との連携により個人の排泄パターンを把握し、負担にならないような排便を促せるよう心掛けてきました。

プライバシーを守るためには、介護員の心配りが重要だと思います。

排泄物の処理方法・陰部洗浄・消臭対策を行い、継続してきたことにより職員の意識が高まってきたと思います。また、私達介護員の声掛けに対しても更なる気遣いが必要だとも感じています。

## 3. 家内のユニットの取り組みについて

- 前年度の報告にもありましたが、テーブルの配置やご自分の席に対しては、ご利用者一人ひとりの拘りが特に強く、配置替えを行うことはとても難しい問題でした。特定の方だけがテレビの向きに対して観やすい場所であったり、エアコンの冷気が直接当たらない場所であったり、居室やトイレまでの行き来が容易な位置であったりと、其々の思いがありました。しかし、その思いは当然であって、当たり前のことだと思います。それだけに些細なことでもトラブルの原因となってしまいました。安易に考えず、利用者さんの意見を聞き入れ、納得して頂けるまで時間をかけて対応すべきでした。
- 「臭い」の対処法として、こまめに衣類洗濯を行い、優しい香りの柔軟剤を使用することでフロアに自然な気持ちよい香りが漂うよう試みた。
- 外出の機会が多くとれるよう、ご利用者と一緒に買い物に出掛けることができましたが、介護員の人員配置の問題で、気軽に出掛けることができませんでした。ホーム全体で計画を立てると実行性が高いが、ユニット単独での計画は難しいことが分かった。

- 鉢植えやプランターを利用し花を育てることで雰囲気や和やかになり、水遣り等に気遣って下さる利用者さんも見受けられました。

#### 4. 行事等の取り組みについて

- 職員数が減少していくなか、少ないながらも協力し合って「ミニ夏祭り」「ミニ敬老会」「ラーメンツアー」等、行事毎の「食事会」を行うことができました。
- 誕生会も3月に3名の合同誕生会を終え、ゆとりのご利用者全員の大切な日をお祝いすることができました。ご家族もお祝いに来て下さり、和やかな雰囲気の中楽しんで一時を過ごして頂くこともできました。何らかの形で気分転換を図ることや、ホームならではの行事に参加することで「楽しかった」との声を聞くこともできました。不安が解消されない日々の生活の中でも、徐々に生活意欲を高めるためには重要なことだと感じました。
- 大変な勤務体制のなかでも、レクリエーションは欠かすことなく重点的に継続することができたと思います。大変なことだからこそ継続することに意義があり、利用者さんの気分転換と意欲を引き出し、職員は達成感を味わえたのかも知れません。

#### 5. 一年を振り返って

幸か不幸か、気付けば職員・ご利用者が減り、各ユニットの利用者数も通常のユニットと言われる人数までになってしまいました。以前、1ユニット14人から16人のご利用者のケアにあたっていたときのことを思い出すと、今では「良くやってたなあ」と、身震いがする程です。状況に應じ必死でケアに当たっていたのは間違いありませんが、10人のご利用者になった今のケアが果たして良いケアだと言えるのか少し疑問です。もっと違ったケアのあり方や、利用者さんに寄添うことができる時間が創れるのではないかと考えさせられるときがあります。

時間で退勤できない・時間に追われる・業務優先になってしまう。それでも頑張っただけでケアしていたことが、今となっては少し手持ち無沙汰に感じてしまう時があるのではないのでしょうか。

遅く帰るのが頑張っている介護員。腰掛けることなく業務遂行する介護員が良い介護員。と思っている訳ではありません。職員間の共通認識を持ち個別ケアに即し、ご利用者一人ひとりのニーズにこたえられるために、どれだけ時間を費やすことができるのか永遠のテーマかも知れません。

原発事故から2年が経過しました。普段は何事も無かったかのように生活されている利用者さんを見て安心する気持ちと、これで良いのだろうかと思いつつ時があります。私達介護員は未だに不安を抱えながらのケアかも知れませんが、今まで何かにつけ、原発事故を持ち上げ、そのせいにしていたことも確かではないのでしょうか。そのために自分達のモチベーションを自分達で下げていたのかも知れません。現状に甘んずることなく、本来の“いいたてホームならではのケア”を考えて行きたいと改めて感じました。



## 1. 生活全般について

- 4月下旬に北棟より2人のご利用者がひだまりの家に移動してきました。皆さんと馴染まれるまで時間はかかりましたが、少しずつ慣れ、いつもの「マイペース」で生活を送ることができたと思います。
- 原発事故は、今年度も日常生活を営むうえで大きな影響を及ぼしています。しかし、それに負けまいとホーム本体の事業計画を立てて頂きました。計画のなかのドライブや外食はとても好評で、参加された方が戻られた時は、とても生き生きとされていました。次年度も更によく立案をお願いしたいと思います。
- ご家族や知人の方が村外へ避難をしているため、震災前より面会は少なくなったと思います。また、子供の声も聞けなくなったことで、言葉には出しませんが寂しく思っているのではと感じました。

## 2. 食事・入浴・排泄について

## 1) 食事

- 一人ひとりに合った食事時間や個々に合った食事形態を提供することにより「食べる」喜びを感じて頂けたかと思います。
- 体調不良の際、看護師・栄養士・介護員の連携により、一日のトータルの栄養バランスを考え対応してきました。しかし、個々に対応する時間が長くなってしまふことで、他の方が、対応に対して満足していなかったのではないかと思います。
- 家料理は数回しかできませんでした。もう少し季節料理を提供できれば良かったと思いました。
- ユニット全員での外食はできませんでしたが、ホーム事業のドライブ兼外食に数名の方が参加することができたので、今後も、外出の楽しみと他のユニットとの交流も踏まえ継続して欲しい。

## 2) 入浴

- 体調不良の方の負担軽減のため、2名対応での介助で、個浴に入って頂くことができました。また、ユニット内での入浴中に急変があった場合、直ぐに相方を呼び出すことができるので安心して入ることができたと思います。
- ご利用者の状態に合わせ、随時、検討とその対応をしてきました。(入浴ができない時は、清拭や手浴・足浴で少しでも爽快感を味わって頂けたと思います。)
- ゆず風呂は好評でした。また、ゆずに限らず季節を感じられるようなものを、時々湯船に入れることで気持ち良く入浴を楽しんで頂ければと思います。

## 3) 排泄

- 個々に合ったパットを使用することにより、皮膚トラブルを軽減することができました。
- 排便コントロールの調整が上手くいかず、看護師による調整が多くなっています。
- プライバシーを守るため、排泄に係る尿漏れや排便の度合い等によって「A・B・C・D」と言い方を変え確認する等、配慮してきましたが、つい食事時間帯に話をしてしまった時もあったので気を付けたいです。

## 3. 家内のユニットの取り組みについて

ひだまりの家は4月～翌年3月まで9人の方が経口摂取しています。

その中で体調不良により摂取困難になった場合、「どの様な食事形態がいいのか」「どの様な食事体勢がいいのか」「いつ食事時間にしたらいいのか」等、個々に合ったケアを個別毎に考え、朝から夕方まで介助してきました。そのなかで、「美味しい」と言う表情を見受けられたり、言葉で発してくれた時は、私達も努力してきて良かったと喜びを感じたのも確かです。

また、介護員同士や看護師・栄養士と共に、ご利用者の状態等の情報交換を密に行うことで、ベストな食事提供ができたのではないかと思います。

#### 4. 行事の取り組みについて

- 色々な行事で職員が盛り上がりながらも、ご利用者が置いてきぼりになっていたのではと感じる時もあり、ご利用者の様子を見ながら対応して行かなければならないと感じました。
- 行事等でもマンネリ化が見られ、ご利用者の方々が「本当に楽しいのかな」と思う時もあり、また、誕生会の時にも利用するカラオケ等に疑問を感じる時がありました。これから、もっと工夫が必要だと感じます。
- ホーム内の行事には、ご利用者の体調を見ながら参加して頂きました。参加された方はとても満足のように笑顔も見られました。
- ボランティアによる色々な催しものは、東棟ホールで開催する機会が多く、ベッド上で生活されている方の参加が難しく、今後、更なる検討が必要かと思いました。

#### 5. 一年を振り返って

- 4月26日に、こもれびの家から2名のご利用者がきました。  
移動されてきた1名は、直ぐに皆さんと馴染まれ、マイペースで好きな縫い物等をして過ごされています。もう1名の方は、同じように自分のペースを崩すことなく過ごされています。
- 11月12日午前零時40分に1名のご利用者が、ご家族と介護員に見守られながら永眠されました。最後までご自分を見失うことなく笑顔で「どうもありがとう」と手を挙げて介護員を労って下さったことがとても印象に残っています。  
また、もう1名の方も1月31日14時40分に、ご家族と介護員に見守られながら永眠されました。亡くなられる一週間前まで、ご自分の身支度をしっかりされ、とても綺麗好きな方でした。几帳面な一面もあり、皆さんを気遣われる笑いの絶えない方でした。
- ひだまりの家で、2人の方とのお別れがありました。元気な時でも、体力が低下した時でも、また、看取りの時期でも、介護員の声掛けに笑顔で「大丈夫」と答えてくれた時や、反応があった時は、とても嬉しい気持ちになりました。言葉で表現するなら「ご利用者の笑顔があるから、辛い時や苦しい時でも頑張り携わってこれた」のだと思います。
- 日々、ご利用者の状態を把握していたことから、体調を崩された方がいた時も個々に合わせた対応ができていたと思います。
- より一層寄り添えるケアに近づけるために、もっと一人ひとりに関われば良かったと思いました。でも、本音で訴えてきた方もいたので、少しではありますが信頼関係が深くなったように思いました。
- 震災後、色々な制限に伴い不自由なことや、ストレスが溜まり易かったことと思いますが、職員の色々な工夫と努力によって、あまりストレスを溜めることなく過ごせて頂けたのではないかと思います。  
また、ご利用者で感情のコントロールが上手いかず本音をぶつけてくる方がいる時は、介護員同士で意見を出し合い、良い方向へ進むよう、その方の意見を共感することで、普通に過ごして頂けたのではないかと思います。  
反省として、自立支援の方々に寄り添ったケアがなかなかできなかったと思いました。
- ご利用者の性格・様子等を把握し、無理なく個々に合った対応を提供することができたと思います。また、様子が変われば、直ぐに看護師・栄養士・介護員で「今、何が大切で・どうしたら・身体が楽になるのか」を真剣に意見をぶつけ合い、議論してきましたが、ご家族から「ここで良かったです」「いつもお世話になっています」等の言葉を聞くと、これで良かったのだと思います。  
ご利用者が辛い時は介護員も大変辛いけれど、この仕事はやっぱり最後に「ありがとう」の一言を聞いただけで大変だったことも忘れてしまいます。

## 1. 生活全般について

震災後、マンネリしてしまっていた生活で2年目を迎えました。

今年度は、1名のご利用者とのお別れ、北棟閉棟に伴い2名のご利用者の移動があり、生活や身体状態にも変動がありました。

朝の挨拶に「おはよう」と元気に応えてくれるご利用者に、何度も“元気”や“笑い”を頂くこともありました。

ラジオ体操を生活に盛り込もうとご利用者と一緒に行い、また、居室で過ごされる方にはコミュニケーションをしっかりと取ろうと努めてきましたが、持っている機能を活かすためのケアを維持することができず一年が終わってしまいました。

唯一週3回のレクリエーションのレクダンスでは、普段と違った手足の動きとカラオケ等の音楽療法により、少数の参加者ではありましたがリフレッシュに繋がったと思います。また、冬季間のアクティビティーは、手足の冷えも解消され、身体も気持ちも温かくなったように思います。

それでも外へ出られないストレスからか「外へ出たい」と何度か言われる方がおり、昼食後、少しの間だけ外で過ごして頂いたこともありました。

入退院の繰り返しや、体調不良・身体の機能低下等により、ベッド上で過ごすことが多くなった方のケアが思うようにできず、私達もその対応に心身的に苦しんだこともありました。

振り返ると介護員同士協力し、統一したケア内容で乗り切ることができましたが、同時に業務に追われ、つい口調もきつくなってしまったこともありました。そんな時、ご利用者との会話で癒されたり、励まされたりして最後には笑顔になるときもありました。

今後、「自分らしく生活して頂くため」に家族から趣味等の情報を収集し、生きがいや楽しみに繋げると共に、ケアに盛り込み充実した生活を送れるようにしたいと思います。

## 2. 食事・入浴・排泄について

### 1) 食事

- ・ 楽しく食べて頂くため、個々の状態に合った形態と食器類の見直しを随時行い、改善してきた。
- ・ 誕生会のない月には、家料理等を取り入れたり、希望のメニューや、その季節に合った料理を提供することができた。
- ・ ご家族の面会時に、ご利用者の好物を差し入れて頂き、それを一緒に食べて頂くことで、笑みがこぼれるなど、楽しく過ごされ、とてもほほえましい光景も見られました。

### 2) 入浴

- ・ 身体状況に合わせ、負担のかからない入浴方法と形態の見直しを随時行うことで、安全に入浴して頂くことができたと思います。また、クリームやローション等を活用することで肌の保湿に努めることもできました。
- ・ 居室から浴室、入浴中等、プライバシーを守ることや、声かけに関しては、気づきがい不十分だったと思えることもあった。今後、それらを留意しながら、また、ゆったりと入浴して頂くために、癒し効果のある物を利用したり、音楽を流す等、色々なことを盛り込んでいけたらと思います。

### 3) 排泄

- ・ 不快感のないよう尿量に合ったパットの使用と見直しを随時行うことができた。
- ・ 排便コントロールが上手く行かない時は、昼食の時間帯にずれ込んだり、声掛けが不十分だったこともあり、他のご利用者にも不愉快な思いを掛けてしまったことは反省すべき点でもあった。
- ・ 生活不活発病を予防するためにも、排泄交換時に手足を少しでも動かして頂く等、心掛け支援して行きたい。また、今後、無理のないおむつ外しにも取り組んでいきたいと思う。

### 3. 家内のユニットの取り組みについて

- ・ 原発事故の影響で屋外に出ることができなかつたため、季節の花や植物等をフロアや居室内に飾る等の工夫をし、もっと季節感を演出することができれば良かったと思う。
- ・ 一人ひとりのニーズに応えることや、声掛け、ケアの内容に関しては「今、何をして欲しいのか」を同じ立場になって考え、支援することができたと思います。しかし、居室で過ごされている方との関わりがどうしても薄くなってしまい今後の課題となった。
- ・ ケアの提供にあたって再確認の意味でも、家会議・ケア会議等で随時、ケア内容を把握しながら再検討する必要があると思った。

### 4. 行事等の取り組みについて

- ・ ドライブを兼ねた外食や花見、紅葉狩りはご利用者にとって良いストレス解消と気分転換になったと思います。また、夏祭りには、盆踊りの本物のおはやしにご利用者も職員も一緒に夏の雰囲気を楽しむことができました。今後も盛り上がるような企画をして行きたい。

### 5. 一年を振り返って

- ・ 原発事故から2年が過ぎ、外に出られないことや職員不足等といろいろありましたが、良い意味でも悪い意味でもこの状況に慣れてきたように感じられる。

常日頃から言われていることだが、飯館に残ると決めたからには、このことを理由に手を抜いてはいけない。

「ご利用者との関わりの時間はきちんと持てただろうか」「業務に追われ、ただこなすだけの毎日にはなっていないかどうか」等、また、このような状況だからこそ「ちょっとした時間でも、大切にケアにあたることができたかどうか、そして心掛けられたかどうか」再度、考えていく必要があると思った。

- ・ 個々の個性が強く、また、業務に追われ応えることができない時があった。しかし、楽しく笑顔で毎日を過ごせるよう、今後は、今以上に一人ひとりに寄り添ったケアを提供して行きたいと思います。

まずは「今・できること」から始めたいと思う。

## 1. 生活全般について

震災から2年目、くつろぎの家のご利用者2名が亡くなり、新たにのどかなの家から1名の方が移動されてきました。一日とは言えないご利用者の体調の変化は速く、入院された方や骨折等、私達が何処まで把握できていたのかと感じ、考えさせられる年でした。

そんな状況下でも、環境対策が緩和され、窓を開けて換気を行うことで季節を感じる事ができるようになり、また、設えも徐々にですが、声かけ等ができるよう“寛ぎの場”をキッチン側に近づけました。今後も、快適に過ごして頂けるよう言葉遣いや、寄り添ったケアに努めて行きたいと思えます。

## 2. 食事について

トロミ加減や水分補給時のむせりを少なくするため、どのような工夫をすれば美味しく食事を摂ることができるか等、介助時の観察や話し合いにより、負担にならないよう、随時その状態に応じた食事形態に対応してきました。その結果、嚥下状態も緩和されたように思えます。

家料理等は、常食者が少なくなってきたことから、何を作れば良いのかを考えている内に一年が過ぎてしまい少し残念でした。

## 3. 排泄について

体調変化に伴い、居室からトイレ、トイレから居室と安楽で快適に排泄ができるよう、排泄チェック表の活用と随時パットの見直しを行い、また、洗浄での消臭対策などにも努めてきました。

反省としては、羞恥心を考えない声掛けがあったことは残念であり、今後そう云ったことのないよう徹底して行きたいと思えます。

## 4. 入浴について

食事や排泄と同じように、体調に合わせ、入浴曜日の変更や入浴形態、2人対応での入浴介助をするなど、安全・安楽に入浴して頂くよう取り組んできました。

昨年は入浴を拒否する方がいましたが、今年度は「良い風呂だったよ～」と多く聞かれ嬉しく思いました。また、家での上着洗濯の際に、香りつきの柔軟剤を用いたことで肌触りがよく、気持ち良く衣類を身につけることもできたことから今後も続けて行きたいです。

## 5. 行事の取り組みについて

昨年同様、小規模ながらも例年通りの行事を行い、皆さんが参加することもでき良かったと思えます。

また、誕生会では、お忙しいながらもご家族の方々に来所して頂き、一時ではありましたが楽しい時間を過ごすことができたと思えます。

今後ご家族の方との連絡を密に、ご利用者の喜ぶ顔を沢山見ることができたらと考えています。

## 6. 一年間を振り返って

アクシデントや体調変化による入院、看取りケアについて、常に考えさせられる一年でした。これまで経験した色々なことを無駄にせず、ご利用者の笑顔を沢山見られるようお手伝いができたらと思っています。

## 1. 生活全般について

家目標であった『ご利用者一人ひとりが、限られた環境の中でも充実し、生活に溢れた日々を送れるようお手伝いする』について。

- ・ 今年度は、北棟より移動し生活することになりました。今だ、原発の影響もあり屋内での生活を余儀なくされるという状況でしたが、それでも誕生会や外食ドライブ、季節毎の行事に参加して頂き、楽しんで頂けたかと思えます。また、ある方は親戚の結婚式に出席するために、目標を持ち、当日まで楽しみに生活を送られた方もおられました。
- ・ おしほりたたみや、新聞たたみなど、できることをやってみました。
- ・ レクリエーションは、週3回(火・木・土曜日)に行い、内容も音楽に合わせた体操やゲームを取り入れる等充実させ、アクティビティーでは、ちぎり絵等を加えたことで、活気も持って頂けたようです。そして、参加されている和やかな雰囲気の中、笑顔が見られたことは、私達にとってとても励みとなりました。
- ・ ボランティアの方と一緒に音楽を鑑賞することができたことは、楽しみの一つにもなっていることから今後も継続して行きたい。そのため、ボランティアの要請を施設として発信し、社会資源を活用し、沢山楽しんで頂ける環境を整えたいと思えます。

## 2. 食事・入浴・排泄についての反省と報告

### 1) 食事について

- ・ ご利用者の嗜好・状態変化に合わせ、随時、食事形態も見直し、なるべく最後まで口から食べて頂くよう考え食事を提供してきましたが、嚥下状態が悪化し経管栄養となってしまう方も多くなってきました。
- ・ 楽しみの一部として、わずかでしたが家料理として、ご利用者と共に実際に調理し、手で触れながら、芋の油味噌炒め・白菜漬け・ラーメン・餃子・ロール白菜・ヤーコンサラダ等わずかでしたが、作って食べることの楽しみを五感で味わって頂けたかと思えます。
- ・ 前年度は放射能のこともあり地元の山菜は全く食べられませんでしたでしたが、今年度は、村外の安全な場所の「ふき」や「柏の葉」で、香りを楽しみながら料理を作ることができ、楽しんで頂けたかと思えます。次年度も季節感を味わって頂くため、栄養士と連絡を密にし、食材を調達して行きたいと思えます。

### 2) 排泄について

- ・ 其々の体質に合わせ看護師と相談しながら、プルゼニドやセンナ、漢方薬や食物繊維を調整し、排便を促すことができましたと思えます。今後も、状態に合わせ柔軟に対応して行く。
- ・ 一人ひとりの排泄パターンをつかみ、片麻痺があってもトイレ介助にてトイレでの快適な排尿、排便を促す等、自立排泄を大切にしてきました。今後も状態をみながら継続したい。
- ・ 尿量の変化に合わせ、不快感のないよう随時パット使用の見直しをしてきました。
- ・ 窓を開けられない環境の中、陰部洗浄や排泄物は新聞紙に包み消臭軽減を図ることに努めてきました。それでも尿臭がきつく居室全体が常に臭う場合は、消臭芳香剤を利用し調整してきました。

### 3) 入浴面について

随時、ご利用者の状態に合わせ入浴方法を話し合い、より良い方法で安全で安楽な入浴を提供しようと努力してきたものの、稀に入浴時に内出血や裂傷・臀部に傷を作ってしまうということもありました。しかし、そう云った場合、看護師や上司のアドバイスにより迅速に対応し、それ以上大きくならないように努め、また、二度と繰り返さないよう配慮してきました。

状態が重度化してきている方が多くなっていますので、今後の状態を見ながら、看護師等と随時話し合い、最後まで気持ち良く入浴して頂けるよう工夫をして行きたいと思っております。

### 3. 家内のユニットの取り組みについて

- やすらぎの家は、北棟より西棟に移動しての生活となり、また、ご利用者も若干入れ替わったことから、ご利用者同士がトラブルを起こさないよう、声かけを徹底するほか、ソファを設け、そこでメドマーをかけながら寛いで頂いたり、マッサージ機でリラックスして頂く等、精神面の安定も図ってきました。
- 誕生会では、全体的なお祝いをフロアで行い、その後は、なるべくご家族の方と親子水入らずの時間を大切に考え、居室で気兼ねなく過ごせるよう、テーブルを設け、楽しいひと時を過ごして頂きました。
- 内出血のアクシデントが発生すると、直ぐに話し合いを持ち、職員のアイディアで柵の保護カバーを手作りしたり、身体にあたる部分に保護シートを貼ったり、クッションを置いたり、迅速な対応をすることができたと思っております。
- 季節に合わせた家内の設えは、今後も継続して行きたいと思っております。

### 4. 行事等の取り組みについて

- 屋内での行事中心でしたが、『夏祭り、敬老会、外食、紅葉狩り、ミニ運動会&芋煮会、餅つき、新年会、団子さし、ひな祭り会』の行事を催すことで、その折々で生き活きた表情や笑顔が見られたり、五感で楽しむことができとても良かったと思っております。また、芋煮会では、ご家族の協力もあり一緒に協力して開催できたことは大変良かった。
- 誕生会では、手紙や面会時にお知らせをした結果、8組のご家族の方が来て下さり、ご家族の方と一緒にケーキにデコレーションをしたり、ぼた餅ケーキを作ったりして頂きました。また、ご本人の喜ぶものや好物等を聞くため、事前にご家族の方に連絡したことにより、手作りの物を持って来られたり、買って持参されたりと、ご利用者も大変喜んでいました。今後も、その人らしい誕生会を迎えられるよう努めて行きたい。

### 5. 一年を振り返って

今年度は、5月より北棟の2ユニットから西棟のやすらぎの家に移動され、生活を共にしてきました。

当初は、全員離床し口から食べていましたが、次第に何人か重度化し、食介に人手を要す方がたため、看護師や多職間の協力を得、また、食介やその方の食べられる時間に合わせる等、個別ケアを重視することにより時間が取られ、次第にゆとりがなく時間との戦いでした。

おやつは、なかなか定時には提供できず、大分すれ込んでしまい、迷惑を掛けてしまったこともしばしばありました。大変な状況のなか、それでも一人ひとりのケアをしっかりと行なうことができたことは、看護師を始め多職間、職員同士の連携と協力があったからだと思います。

ご利用者3名の方が、次第に経管栄養や点滴となり、また、1名の方が突然体調を崩され最期を迎え旅立たれました。私達も、ただただ驚くばかりでしたが、最後までその方らしく生活を送って頂けたことが、なにより救いでした。

今年度は、4名の方が亡くなり、ご利用者が寂しい思いをせずに、安心して最後を迎えられる環境作りや、より良いケアをするには、個々の状態に合わせ、固定観念にとらわれず、職員一人ひとりの創意工夫と、一丸となりケアをすることが最も大切だと感じ、看取りのあり方や日頃の手厚いケアが如何に大切かを勉強させられた一年でもありました。

今後も、年齢と共に認知の進行や重度化は避けられないものの、変調を早目に察知し最小限に食い止められる努力をして行きたいと思っております。

平成24年度 いいたてホーム医務室事業報告書

1. 基本方針について

入居者の体調管理は基より、感染症等の予防と症状の早期発見に努めることで最後まで安心して過ごせる施設生活を提供するため、入居者自身・ご家族・医師との連絡調整をスムーズに行い、医務室としての信頼を築きあげてきた。

2. 具体的な施策について

1) ご利用者及び職員の健康管理

<p>■ 健康診断について (入居者)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 検診率100% (年2回実施)</li> <li>▶ 緊急を要するような検査結果は3ケースあったが、いずれも通院加療中であったため、かかりつけ医で経過観察中。</li> </ul>
<p>■ 職員の体調管理について</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 感染症対策を講じることで早期発見や治療に繋がり、症状の重度化を避けることができた。</li> <li>▶ 介護職員の平均年齢が45歳を超えていることで、柔軟性と筋力の低下が目立ち、体調不良を訴える職員が目立っている。</li> <li>▶ 村外通勤を余儀なくされていること、かかりつけ医が固定しにくいこと等がストレスの要因になっている。</li> <li>▶ 腰痛対策については、予防法と介護技術の修得に努めたことから特に痛みの訴えは少なかった。</li> </ul>
<p>■ 健康診断について (職員)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 検診率100% (年2回実施) 施設外で健診を受けた職員については結果の写しを医務室管理とした。</li> <li>▶ 3人に1人は何らかの慢性疾患があり内服薬の処方を受けている。</li> <li>▶ 腰痛検査については、放射線を懸念し整形外科医による診察と問診のみとした。“総合的に心配なしと判断”という結果が殆ど。</li> </ul>
<p>■ 健康教育について</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 『なんでも勉強会』を定期的に行い、身体のしくみと健康管理の重要性を周知した。</li> <li>▶ 『医務室勉強会』については、急変時の対応を中心に転倒時・痙攣発作時等、具体的な症状に合わせ勉強することができた。 復習を兼ねて勉強会を実施。自主的に時間を調整しての参加であったが、苦手な項目に複数回出席する職員もいた。</li> </ul>
<p>■ 受診について</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 救急車搬送は3件、臨時受診と定期通院の割合は半々。</li> <li>▶ 介護と看護間で情報を共有することで比較的速やかな対応ができた。 (手遅れという状態は避けられた)</li> <li>▶ 医療知識の周知・理解を図ることで疾患や事故の予防ができた。</li> <li>▶ 重症度の高いご利用者についても主治医の指示の下、家族への連絡を密にする等、信頼関係を築くことができた。</li> <li>▶ 終末期の判断については、主治医の協力及びあづま脳神経外科病院と連携を図ることでスムーズに対応できた。</li> </ul>

2) 感染症対策について

<p>■ 感染症対策委員会について</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 医務室が中心となり、時節にあった感染症についての情報を周知し、感染症予防・蔓延に努めた。</li> <li>▶ 委員会としての活動には至っていない。</li> </ul>
<p>■ インフルエンザワクチン接種</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 入居者・職員全員に接種。</li> <li>▶ 入居者に2名のインフルエンザ罹患者が出たが、拡大することなく終息した。</li> <li>▶ 感染性胃腸炎については、特に治療を要するような症例はなく、比較的軽症の後に回復した。</li> <li>▶ 熱発者については各棟数名大事に至ることなく経過した。</li> </ul>



### 3) 褥瘡対策

<p>■ 皮膚トラブルの予防</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 早期発見の重要性を周知することで、皮膚のトラブルは殆ど無い。</li> <li>➢ 皮膚の状態を健やかにするため、セラミド入り乳液である『キュレル』を使用。</li> <li>➢ 栄養の大事さ、経口摂取については適宜ケア会議などで話し合い、関心を深めていった。</li> <li>➢ 病院から褥瘡形成され退院となった方も完治に向け努力している。</li> <li>➢ 研修会参加後の復命と情報交換を看護師間で行い、保護剤や被覆材の選択を検討した。</li> <li>➢ 施設内で形成された重度褥瘡はゼロであった。</li> </ul>
--------------------	--

### 4) 終末ケア

<p>■ 看取りについて</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 「慣れ親しんだホームで最期を」と希望する入居者や家族が多く、17人を施設で看とった。病院に移ってから亡くなったのは3人。</li> <li>➢ 最期は家族に寄り添ってもらするなど、できるだけ悔いが残らないように配慮することで信頼関係を継続できた。</li> <li>➢ 終末期を考慮し、厨房・介護・看護の全スタッフで関わる事ができた。</li> <li>➢ 定期診療に加え、深夜にもかかわらず来所し、死亡確認と家族への説明をしてくれる囑託医の存在が心強い。</li> </ul>
------------------	--

### ≪ 通院状況 ≫

	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月		合計	
	実	日	実	日	実	日	実	日	実	日	実	日	実	日	実	日	実	日	実	日	実	日	実	日	実	日
10病院	10	11	6	7	7	8	7	7	8	9	3	3	7	9	6	6	5	5	13	13	6	9	5	5	83	92

(※実 は 実人員、日 は 日数)

(10病院、南相馬市総合病院、小野田病院、福島医大、大町病院、あづま脳神経外科病院、福島赤十字病院、福島済生会病院、済生会川俣病院、雲雀ヶ丘病院、第一病院)

### ≪ 入院状況 ≫

	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月		合計	
	実	日	実	日	実	日	実	日	実	日	実	日	実	日	実	日	実	日	実	日	実	日	実	日	実	日
10病院	3	29	4	55	4	50	4	30	8	100	7	143	6	82	6	104	4	81	3	26	3	59	3	71	55	830

(※実 は 実人員、日 は 日数)

(10病院、南相馬市総合病院、小野田病院、福島医大、大町病院、あづま脳神経外科病院、福島赤十字病院、福島済生会病院、済生会川俣病院、第一病院、藤田病院)

平成24年度 厨房事業報告書

1. 重点目標について

「ご利用者一人ひとりの状態と嗜好性を考慮しながら、食べやすく美味しい食事提供に努めて行く。」ことについては、概ねできたと思います。

2. 実施内容

(1) 年間実施食数

食種 食数	特養 経口食	特養 経管栄養	ショート	職員食	研修食 実習生	検食	家族食	デイサービス
年間食数	72,437	16,750		昼13,189	14	1,095	43	
1ヶ月平均	6,036	1,396		1,099		92		
1日平均	198	46		36		3	芋煮会など	
年間総食数	103,528 食							

(2) 年間食材費

食 材 費	特 養	デイサービス
平 均	1人 1日 829円	
食材費総額	28,602,744 円	

(3) 年間平均食事栄養量

栄 養 量	熱 量	たんぱく質	脂 質	塩 分	水 分
特 養	1,602kcal	62.4g	43.0g	7.9g	1,341ml

(4) 栄養ケアマネジメント

対象者	対象者	実施期間	見直し期間
特 養	入居者全員	通年	3ヶ月。但し、食事形態に変更があった場合はその都度随時見直し対応
(平成25年3月末)			
アセスメント結果 入居者 74名	低リスク (問題ない者) 34名	中リスク (やや瘦傾向・経管者) 35名	高リスク (褥瘡がある等) 5名

(5) 事業取り組み内容

1) 食事サービス

① 栄養ケアマネジメントの実施

- 24年4月～管理栄養士2名体制になり給食管理（主に献立作成に関する事）と栄養管理（ケアマネジメント）に業務を分けて取り組めたため、きめ細かなアセスメントを行う事ができた。また、毎日管理栄養士が1名勤務している状態になり急な変更（経管栄養など）にも随時、対応できるようになり良かった。
- まだ期日に追われながら栄養計画を作成している部分があるため、次年度は余裕をもって対応できるようにしたい。

② 食べやすく、美味しい食事の提供

- 多職種と連携しながら随時食事形態の見直しを行い、ご利用者の意思を尊重しながら、より食べやすい形態で提供できるよう工夫した。
- 食欲の低下が見られる方に対しては2種類の食事形態を併用し、体調によって食べやすい方を摂って頂き、好きなものや飲み込みやすいものを補食する等、必要な栄養を確保できるよう柔軟に対応できた。
- 季節感が味わえる食材を用い、食べる楽しみを感じられる行事食を提案できた。但し、飯舘産の山菜類は原発事故による放射線の影響で規制され食べることができなかったため、他産地の食材を用いたが、やはり地元産の物と比較すると風味が劣り、当たり前前に食べていた頃が懐かしく、また、やり切れない思いが込み上げてきました。
- 誕生日デザートを1月より、栄養士が担当し厨房から提供できるようになった。お祝いを更に思い出深く演出できるようデコレーションを工夫してグレードアップさせて行きたい。
- 1日5名の職員体制がとれる日には（2ヶ月に1度位）手の込んだ料理を提供し、

ご利用者と職員にも好評で、それが自分達の励みにもなった。

- ・ 日曜日の喫茶レクでは、支援物資を利用したり、季節感のある手作りおやつと共に、楽しいティータイムを過ごして頂く事ができた。

## 2) 安心・安全な食事の提供

### ① 衛生管理の徹底

常に食中毒及び感染症予防に注意しながら作業を行い、外部専門業者による衛生管理も実施し評価も良い方へ改善された。事故が発生しない事が当たり前なのでこれからも衛生管理の基本を再確認しながら予防に努めていきたい。

### ② 安心・安全な食材使用

- ・ 今年度から食品放射線量検査機器を導入しホーム内で検査実施。現在まで基準を全てクリアしており安全性を証明すると共に放射線の不安を軽減している。
- ・ 全国から善意の食材支援があり、今も定期的に継続して頂いている。送って下さる方々に感謝しながら、時にはご利用者と一緒に調理しながら大切に使用して頂いている。

## 3) 会議の充実および技術向上

### ① 厨房会議

一人ひとりが積極的に意見を出し合い、厨房の課題克服や取り組みについて話し合うことができた。一方で、栄養士の対応が遅れ作業に支障をきたしたり、事前の確認不足で他部署との連携がスムーズにいかないこともあったため、2名体制を活かせるように改善していきたい。

### ② 委員会、家会議

リスクマネジメント委員会及び口腔ケア委員会、家会議へ参加し、ご利用者の状態を把握、その情報を皆で共有、食事提供に反映させることができた。

### ③ 技術向上

- ・ 徐々に業務効率も上がってきており行事食も昨年より充実した内容で提供できた。
- ・ 調理と専門知識の勉強を行いながら資格試験にも挑戦し、今年度は受験者3名全員が調理師試験に合格することができた。更なる技術向上に努めていきたい。

## 3. 一年間のまとめ

昨年はギリギリの職員体制の中で食事を提供するのに追われた感がありましたが、今年は職員も業務に慣れ技術も向上して一歩前進できた年でした。

避難先からの通勤も2年目となり肉体的にも精神的にも疲労が蓄積、職員補充もままならない状態でしたが、逆に現在いる自分達でこの状況を乗り越えて行くしかないという結束が生まれ、皆で協力し合いながら業務を遂行することができました。

食事提供にも前向きな提案があり、年度後半から手の込んだ料理の提供にも取り組み、レパトリー数を増やしてきました。このことが、ご利用者と職員にも好評で、それが励みになり「今の時期はこの食材が旬だからこんな料理も良いのでは」「支援物資や在庫食材を使ってこういう料理を作りたい」等、積極的な意見がどんどん出て実際に実現できるようにもなりました。

互いを思いやる信頼関係があるからこそ、間違いがあれば指摘し合い、次回はミスのないよう事前勉強をしっかりと臨む等、一人ひとりが自覚しながら協力し合う体制も整いつつあるので、職員不足だから無理と決め付けず、現場の自主性に任せ、事務処理を迅速にこなす等、仕事をしやすい環境に整備したいと思います。

ご利用者も年々機能低下が見られ、特に嚥下に配慮した超キザミ食やペースト食の方が全体の半数を占めるまでになりました。食事から経管栄養に移行し短時間で全身の状態が急変することを目の当たりにし、最後まで口から食べることが本当に大切だと強く感じています。

夏まつりや芋煮会でご利用者やご家族の目前で料理を提供する機会がありましたが、普段は超キザミ食をむせりながら食べている方でも、行事の時には常食で普通にむせらずに食べられる等、調理の様子を目で見て音を聞き香りを嗅いで直接五感を刺激されると食欲が増進することを改めて実感すると共に、食事の意義を再認識させられました。

まだまだ厳しい状況が続きますが、これからも食事を通してご利用者の支援の一翼を担えるよう皆で努めていきたいと思っております。

平成24年度 いいたて在宅介護支援センター  
指定居宅介護支援事業所事業報告書

1. 基本方針について

介護保険の基本理念である「高齢者の自己決定権の尊厳」「自分らしい生活の継続」及び「自立支援」を基本とし、ご利用者の意向を踏まえ、自立支援に向けた居宅サービス計画を作成し、プランに添ったサービスが提供されるように、ご本人並びに家族は勿論のこと、多種多様な事業者や関係機関と調整し、避難先でも家族との生活が継続できるような支援を行ってきた。

(1) 信頼を得るについて

ケアプランを立案するにあたり、ご利用者とそのご家族の方との信頼関係を得るため、コミュニケーションを密にし、避難先のサービス事業者とも連携を図り、迅速な対応を目指してきた。

(2) 課題を正確に捉えるについて

生活環境が大きく変わった中で、ご利用者・ご家族の方の抱える心配ごとや不安な点を捉えるため、今後予測される課題についても、事前検討を行ってきた。

(3) 情報提供について

ご利用者・ご家族の方が必要としている介護保険制度を含めた様々な情報を適切に提供できるよう、利用できるサービスや避難先の地域資源活用等についても説明を行ってきた。

避難生活の長期化で止むを得ず施設への入所を希望される方々に対して、行政関係機関と連携を図りスムーズな避難が可能になるよう情報提供を行ってきた。

(4) モニタリングを行うについて

常に状況を把握し、状態にあった支援が提供できるよう努めてきた。モニタリング訪問以外にも、できる限りの相談や状況確認などの為、自宅への訪問や電話での状況確認を行ってきた。

(5) ご利用者の立場に立つについて

常にご利用者とその家族の立場に立ち対応することに努めてきた。

『評価と課題』

モニタリング訪問の他にも、電話等により身体状況の変化や生活状況及び家族の介護負担の確認を行い、適切な対応ができるように努めてきました。また、サービス提供事業者や関係機関との連絡体制を徹底し情報の共有を図ってきた。

広域に避難しているご利用者に対応している状況にあり、対応が困難になることから、今後は活動の効率化を図っていくことも必要となってくる。

2. 具体的な施策について

《ケアマネジメントの充実》

(1) アセスメント（課題分析）について

ご利用者及びご家族の方の意向等を把握し、解決すべき課題や生活行為等に対する可能性を抽出し、それらに基づく目標を導き出してきた。また、得られた情報はケアマネジメントの中核とし、状態像を十分に把握してきた。

(2) サービス担当者会議（ケアカンファレンス）について

ご利用者及びご家族の方、サービス事業所が参加することにより、生活への要望や課題を直接会って確認することで、チーム全員が思いを共有できると共に、ご利用される側に安心感を持てるようにしてきた。

(3) モニタリング（サービス実施状況の把握及び評価）について

モニタリングは、ご利用者に対する継続的なアセスメントでもあり、ご利用者や家族の要望、苦情を口に出せるような関係を築いていくと共に、サービスの実施状況も確認してきた。

(4) 居宅サービス計画の見直し（再アセスメント）について

モニタリングの結果から、ケアプラン変更の必要性が生じたら、内容を確認し利用者の状態の変化及びニーズを把握し、居宅サービス計画を見直し作成してきた。

(5) 給付管理について

サービス提供事業者からサービスの実績報告を受け、内容を確認し「給付管理票」を作成し翌月10日迄に県の国民健康保険団体連合会に提出してきた。

給付管理請求一覧

月	平成23年度		平成24年度	
	件数	金額	件数	金額
4	72	966,000	67	875,650
5	67	901,150	62	805,700
6	47	629,300	65	857,000
7	57	773,850	73	998,950
8	58	763,900	67	887,350
9	56	729,350	68	909,200
10	62	814,700	64	842,950
11	62	809,150	66	869,400
12	61	794,200	66	879,300
1	61	787,200	64	842,050
2	58	755,800	64	849,400
3	60	779,250	72	958,200
合計	721	9,503,850	798	10,575,150

『評価と課題』

サービス提供事業所との連絡調整を密に行い、サービス利用に向けた調整を行っていますが、ショートステイの利用希望においては、県内の各入所施設とも避難者の受け入れを行っている状況であり、利用が困難となっている状況にある。特に、相馬地方においては以前と変わりなく運営しているものの、地元の避難者を受け入れ、定員を超えて活動を行っている状況にある。県内の施設についても、慢性的な職員不足の状態でありショートステイの利用希望があっても対応しきれない状況にありますが、今後もサービス事業所との連絡調整を行い、ご利用者や家族の方が安心して相談でき、サービス利用に反映できる様にしていきたいと思います。

3. 重点事業目標について

(1) 利用者に関する情報・サービス提供等の情報共有のための会議の開催について

避難先への訪問活動に時間を取られ、定期的な会議の開催は行うことはできなかったが、随時の話し合いや資料作成により情報共有を図ってきた。

『評価と課題』

訪問活動に追われ定期的な情報共有のための会議を開催できなかったことについては、反省すべきところであった。今後、より効率的な訪問活動を検討し、時間の確保と情報共有のための会議の開催を図って行きたい。

(2) 避難先での孤立防止と意欲低下防止について

訪問活動や電話による状況確認を行うことにより、利用者は勿論のこと、家族の介護への不安解消を図ってきた。

『評価と課題』

定期的な訪問活動の他にも、不安要素があるご利用者や家族への支援活動を展開できたことは満足できるものであるが、過度な期待にならないか等の見極めも必要となっている。

(3) 利用者の状況に応じたケア計画の作成について

ご利用者及び家族の状況を把握することは勿論、サービス提供事業所から等の情報を基に再アセスメントを行い、その時々に応じたケア計画を作成してきた。

『評価と課題』

状況に応じたケア計画作成ができたことには、利用者や家族にも満足して頂け評価できるものと思っているが、その時々だけでなく、当初から長期的な着眼点でケア計画を作成できるように努めていきたい。

(4) 24時間相談のできる体制の確保。

介護支援専門員2名其々が、携帯電話を24時間携帯し、連絡先をご利用者及び家族、サービス提供事業所にも周知し、何時でも連絡相談ができる体制を確保してきた。

『評価と課題』

24時間の携帯電話所持ということで相談対応には十分であったと思われる。反面、相談者自身が被害意識が強くなってしまい、自己努力が見られなくなっているケースも多々あり、自己解決方法等への支援も必要であると感じられる。

#### 4. 介護支援専門員の資質・専門性の向上について

(1) 専門知識及び技術向上に努めてきた。

研修会に参加し周知徹底に努めてきた。(福祉サービスに関する苦情解決研修1名参加)

(2) 不満や苦情があれば、迅速かつ適切な対応が図れるように努めてきた。

訪問時本人や家族の満足や不満等について確認し、サービス事業所への報告や改善を促しながら質の向上に努めてきた。

(3) 秘密保持厳守、及び個人情報の取り扱いを適正に行ってきた。

個人情報等の取り扱いについて慎重に対応するように努めてきた。

(4) 困難事例ケース検討及び新規ケースの情報を共有することで、事業所内で依頼ケースのケアに取り組んできた。

担当者が詳細な情報を報告し、情報を共有できるように努めてきた。

『評価と課題』

研修会に参加し、情報の収集と周知徹底を行ってきた。

困難事例ケースについては、地域包括支援センターやサービス提供事業所とも連携を図り、同行訪問を行いながら対応を行ってきた。困難事例ケースは、介護保険上の問題だけでなく、家族構成・経済・賠償・住宅環境等、家庭環境全体が困難なケースとなっている。

#### 5. 在宅介護への支援について

(1) 介護保険制度及びサービス内容の周知を行ってきた。

サービス利用については、ニーズに合わせ、それぞれの避難先(自治体)で希望するサービスを提供できるよう努力してきた。

(2) 介護方法及び社会資源の利用についての周知を行ってきた。

紙おむつ、パット等の排泄に関わるアドバイス、認知症のご利用者等への対応の仕方等行ってきました。避難先での利用可能な社会資源については、その都度説明を行ってきた。

『評価と課題』

関係機関との連携が益々必要となって行くと考えられ、ご利用者やその家族の不安が少

しでも解消できるような相談援助を継続していく必要がある。

## 6. 各関係機関との連携の強化

地域包括支援センターを始め、各関係機関との連携を密にし、ニーズに沿ったケアマネジメントを行えるよう努めてきた。

各市町村関係機関との連携を行いながら、ケアマネジメントに反映できるように努めてきた。

### 『評価と課題』

社会資源を十分に把握することができないなかで、本人や家族に負担をかけることがないよう、避難先の各種関係機関と連携して支援できたことについては、評価できるものと感じています。今後、生活環境等の変化に対し、対応できるかどうか等の連携が必要になってくるものと思われる。

### 【避難先で、ご協力頂いている（協力頂いた）県内外の各種事業所】

《福祉用具関連事業所》エヌジェイアイケアヘルス福島店、ニチイケアセンター南福島、(株)ファミリーケア（福島市）(株)、昭和総合サービス（郡山市）、(株)ハッピーケア（南相馬市）、(株)アルプスビジネスクリエーション（相馬市）、(有)石井薬局（川俣町）、三和レンタル(株)（横浜市） 《訪問看護事業所》訪問看護ステーションすかわ、訪問看護ステーション松陵、訪問看護ステーションしみず、ひまわり訪問看護ステーション（福島市）、あぶくま訪問看護ステーション（伊達市）、リハビリ訪問看護ステーションつばさ、相馬方部訪問看護ステーション（相馬市） 《訪問介護事業所》介護ステーションつくし、ニチイケアセンター南福島（福島市）、福寿園ヘルパーステーション（南相馬市）、ケアステーションやわらぎ（伊達市）、ニチイケアセンター宇多の郷（相馬市）、田村市東部訪問介護事業所（田村市） 《訪問入浴事業所》(有)キューピット介護サービス、介護ステーションつくし（福島市） 《通所リハビリ事業所》通所リハビリステーションろくまんぼう（伊達市）、あらいクリニック、デイケア松陵、にじのまち通所リハビリテーション（福島市）、通所リハビリテーションめがみ（川俣町）、船引クリニックリハビリセンター（田村市） 《通所介護事業所》老人デイサービスセンターはなみずき、北信デイサービスセンターすこやか、デイサービスセンターなごみの郷、デイサービスあづま、ほうらいデイサービスセンター、ケアセンターしのぶ台、リハビリセンター虹（福島市）、ニチイケアセンター宇多の郷、相馬福祉会デイサービスセンター（相馬市）、福寿園デイサービスセンター、デイサービスステーションスマイル（南相馬市）、保原デイサービスセンター（伊達市）、まごころケアサービス（二本松市）、南東北川俣デイサービスセンター（川俣町） 《短期入所事業所（特別養護老人ホーム）》みず和の郷、なごみの郷、はなしのぶ（福島市）、福寿園（南相馬市）、相馬ホーム（相馬市）孝の郷（伊達市）、南東北川俣シルクロード館、川俣ホーム（川俣町）、咲楽の里、いなわしろホーム（猪苗代町） 《短期入所事業所（老人保健施設）》桑折聖・オリーブの郷（桑折町）、リハビリ南東北川俣（川俣町） 《居宅療養管理指導（住診含む）》医療法人すすきクリニック、ファーマライズ薬局大町店、とやのクリニック、上松川診療所（福島市）、桑名医院（伊達市）、大石医院（相馬市）（敬称省略・順不同）

1. 基本方針について

入所児の避難生活及び災害等に対する不安を少しでも和らげることができる「安心・安全」な保育に重視し、毎月の職員会議において「保育の見直し」と、毎日の「ひやりハット」から重大な事故に繋がらないよう配慮してきた。

また、少人数の保育になることから「子ども達に寄り添った保育」に心掛けてきた。

2. 基本的施策について

(1) 家庭的な雰囲気での保育について

- ・ 0歳児2名、2歳児4名でクラスを分け、生活リズムや遊びを其々の年齢に合わせて保育を実施してきた。
- ・ 家庭での睡眠時間や食事の状況を把握し、それを保育所でも継続できるよう時間帯を合わせ体調管理に努めてきた。
- ・ 一人ひとりに寄り添い、思いを受けとめ言葉を引きだす等、日常生活（食事・排泄・着脱・衛生）に必要な自立を促し援助に努めてきた。

(2) 室内保育の充実を図るについて

- ・ 中央保育室が比較的広さがあることから、プレイルームとして活用、リズム遊びや伝承遊び（はないちもんめ・鬼ごっこ等）を取り入れ、飛んだり跳ねたり、かけっこをしたりと十分に体を動かせるよう努めてきた。
- ・ 建物や駐車場の除染により、屋外放射線量が $0.19\mu\text{sv/h}$ と比較的低い数値になったことから、毎日15分程度の散歩と夏日には水遊びも行った。
- ・ 運営協議会で、トランポリン遊具が子どもの下肢筋力増加に役立つとの意見を頂いたことから、器具を購入し遊びの中に取り入れてきた。

(3) 危機管理の徹底～安全な保育について

- ・ 隔週の備品点検及び月1回の安全点検を実施。施設内や建物周辺に危険箇所はないか確認し徹底してきた。特に、駐車場への無断侵入や無断駐車はしないよう看板等を設置してきた。

また、冬期間は落雪事故防止のため、看板掲示や危険箇所へ侵入防止柵を設置してきた。

- ・ 毎日「ひやり・ハット」を確認、保育環境の見直しを行い事故防止に繋げてきた。
- ・ 午睡中の事故を防止するため、午睡点検表を活用し15分毎のチェックを行っている。

(4) 質の高い保育の継続について

- ・ 外部研修で得た知識をフィードバックできるよう、職員会議で発表し周知徹底してきた。
- ・ 自己評価を行い、常に個々の保育の見直しに取り組んできた。
- ・ 保育計画を立案、各種会議の開催で常に見直しを図り取り組んできた。
- ・ 季節毎の行事を計画的に行い、年間を通してメリハリのある保育に努めてきた。

(5) 保護者との信頼関係の構築について

- ・ 年2回のアセスメントを通して、家庭での様子や保護者の思いを確認し、保育方針等を伝えながら保育に取り組んできた。
- ・ 毎月発行するおたよりや連絡帳を活用し、保育所での子どもの様子を伝えてきた。
- ・ 保護者が気軽に相談ができるよう、言葉遣いや態度に心掛けてきた。



(6) 課題等について

入所児の激減とニーズが少ないことから、今後の保育所の見通しを立てることが困難であるが、少数でも利用される方がいる限り支援をしていきたいと考えている。

3. 会議・行事等の状況について

≪職員会議≫

実施日	内 容
4/25	月・週案、食後の歯磨き開始経過、散歩、年間計画の確認について
5/25	業務内容の確認について
6/27	自己評価について
7/27	厨房の消毒駆除実施、運営協議会委員について
8/27	保育室の移動及び正面玄関、清掃の確認、運営協議会開催報告、自己評価について
9/24	トイレ掃除の確認、駐車場使用確認、蜂の巣除去、保育参観、アセスメント実施、村祭り作品展示、ピンテープ配布に関する事について
10/30	正面玄関、食材搬入の件、内科・歯科検診、自己評価について、研修報告及び勉強会
11/21	手拭きタオル等の衛生面の確認、石油ストーブ使用、職員駐車場使用の確認、正面玄関チャイム利用の保護者への利用周知について、研修報告及び勉強会
12/26	朝のリズム体操、さくらんぼ組トイレの着脱椅子設置、ノロウィルス対策、換気の徹底、年末年始、平成25年度予算等、防災ずきんの設置場所、平成25年度入所児募集掲載について
1/18	新年度入所児状況、今後の対策、平成24年度書面監査指摘内容、自己評価について
2/14	入所希望児について
3/25	新年度入所児、新年度の事務分掌、自己評価について
※ 上記内容のほか、毎月、入所状況・保育内容の問題点・改善点を議題として検討をしてきた (一年を振り返って) 震災後、なかなか外部研修に参加できなかったが、本年度は職員研修に3名参加させることができた。今後、積極的に参加し自己研鑽に努め質を高めて行きたい。 また、来年度は所内研修を充実させて行く。	

≪給食会議≫

実施日	内 容
4/20	食育計画、食品放射線量計の設置計画、行事食について
5/16	食育アンケート、検食簿の記入の仕方、食事展示方法、行事食について
6/22	食育アンケート集計配布について
7/20	夏祭りについて
8/24	夏祭りの反省、災害時の非常食備蓄について
9/19	衛生面の徹底、行事食について
10/15	インフルエンザ・ノロウィルス予防、避難食について
11/21	第2回の食育アンケートについて
12/17	第2回食育アンケート実施について
1/24	行事食、厨房駆除、食品自主検査、ノロウィルス検査について
2/24	行事食について
3/22	行事食について
※ 上記内容のほか、毎月、先月の改善点の確認、今月の改善点を議題として検討をしてきた (一年を振り返って) 食品放射線量測定を11月より開始し、より安全な給食提供ができた。 食育アンケートの意見を反映、子どもたちに満足できる給食提供に努めてきた。 また、食育という観点から、子どもたちが調理を経験する機会を設け、実際に野菜に触れる経験を提供するなど様々な取り組みを実施してきた。	

《避難訓練》

実施日	想定	内 容
4/12	火災	非常の知らせを知る、保育者の下に集まる、避難訓練の意味を知る
5/11	火災	訓練の大切さを知る、落ち着いて避難する
6/12	地震	地震を知る、避難の仕方を知る、防災ずきんを被る
7/12	火災	遊びを中断し、靴を履いて徒歩で避難する、歩行できない子どもをおんぶや抱っこで避難させる
8/24	火災	午睡中保育士の指示に従い避難する、落ち着いて避難する
9/19	火災	職員・入所児に予告なしで避難する、避難の状況から反省点を見直す
10/12	火災	消防署来所指導の下、通報訓練、避難訓練を実施し講評して頂く、消防車の見学、放水見学、消防服試着体験
11/14	地震・火災	地震発生と二次災害の火災発生から避難する、一次避難から指示にて二次避難を行う、防災ずきん・マスクを着け避難する
12/11	地震	非常の合図で午睡から目覚め避難する、布団の中に潜り一次避難を行い、指示の下上着を着用し二次避難をする
1/15	火災	防犯着を着用し散歩車に乗り避難する
2/12	火災	保育者の指示の下、約束を守り避難する・防災頭巾を被る
3/12	地震・火災	一年間の総括、DVD観賞（レスキューキューちゃん）、様々な災害時の避難の仕方を振り返り確認
<p>（一年を振り返って）</p> <p>防災頭巾を被ることに抵抗があった子ども達も、今年は大分慣れたように思う。</p> <p>当保育所を利用する子ども達が少人数であることから、避難は大丈夫という気持ちを持たず、一人ひとりが安全に避難できるよう気を配ってきた。また、毎回の反省点は直ぐに改善し万が一の災害時に備えるよう努めてきた。</p>		

《防犯教室》

実施日	内 容
6/7	「防犯」という意味を知る、身の守り方を知る、寸劇から不審者から声を掛けられた時の身の振り方を知る
8/8	不審者が保育所敷地内に侵入、保育士の指示の下避難し身を守る
11/22	お巡りさんの話を聞く、知らない人について行かない、家族の言うことを聞く、保育士の言うことを聞くことを約束する
<p>（一年を振り返って）</p> <p>子どもたちを不用意に不安がらせず、分かりやすく防犯についての指導に心掛けた。</p> <p>また、常に玄関等を施錠し不信者等の侵入がないよう配慮してきた。</p> <p>立地関係で県道から不用意に侵入する車が頻回にあることから、侵入禁止の掲示をしたところ無断駐車と侵入が減少した。</p>	

《交通安全教室》

実施日	内 容
5/9	道路の歩き方を知る、交通の決まりを知る、パネルシアターを用いアンパンマンと道路の歩き方を知らせる、紙芝居で交通の決まりを教える
9/4	道路では遊ばない、車の側では遊ばない約束をする 車のおもちゃ、人形をつかい道路で遊んだり車の側で遊んでいる危険を知らせる。また、絵本で分かりやすく危険な行為を教える
<p>（一年を振り返って）</p> <p>交通ルールは、子ども達には分かりにくい内容であるが、パネルシアターや模型、紙芝居等を用い、少しでも興味や関心をもてるよう努めることができた。</p>	

《やまゆり保育所利用状況》

月	登録数	保育日数	延べ利用人数	1日平均利用人数
4	6人	24日	111人	5人
5	6人	24日	100人	4人
6	6人	26日	121人	5人
7	6人	25日	127人	5人
8	6人	27日	104人	4人
9	6人	23日	107人	5人
10	6人	26日	107人	4人
11	6人	24日	105人	4人
12	6人	23日	118人	5人
1	6人	23日	111人	5人
2	6人	23日	112人	4人
3	6人	25日	118人	4人
合計	72人	293日	1,341人	54人
平均	6人	24.4日		4.5人

## 1. 基本方針について

通常の業務に加え、介護保険制度の改正（介護報酬単価の改定による書類整備）や新会計基準の導入等に伴う業務、また、原発事故関連業務等により、少ない事務員でこの1年を乗り切ることにより精一杯の年度でもあった。

しかしながら、本年度の基本方針でもある質の向上と効率的な業務に取り組むことについては、事務分担の見直しや相互協力を努めてきた結果、ある程度の成果が残せたと思える。

## 2. 具体的な内容について

### ① 余裕をつくるために

- ・ 事前にできることは、先に取り組み、仕上げておくことで、精神的なゆとりを生み出し、次の業務へと繋がった。

（期限付、定期的な書類等は後回しにしないで、先に先に仕上げるよう努力してきた結果、余裕ができ見直す時間も持て、遅滞することは勿論、間違い等もなくなり、次の書類作成等へスムーズに繋がって行った。）

### ② 効率を高める

- ・ 大切な書類等は、後で問題にならないよう、また二度手間がかからないよう複数のチェック体制を整えることで事務効率を上げてきた。

（仕上がった書類を担当者以外でも再確認の協力を得ることで、簡単なミス等に気付き、提出後の二度手間はなくなった。）

- ・ 書類等、内容が同様なものは上手く活用し、無駄なものは省き効率化を図ってきた。（別々に担当する各関連機関からの調査依頼等でも、重複する内容のものは、それを活用することで時間の短縮に繋がってきた。）

### ③ 情報の共有化

各種制度等の情報を的確に把握し、情報を共有することで、誰に聞いても分かる等、安定した基盤づくりに貢献してきた。

（介護保険制度改正部分や就業規則等の変更について、事務所内で勉強会を行い担当職員以外でもある程度説明できるようにしてきた。）

### ④ 後方支援の役目を担う

- ・ 各部門で知っておくべき情報や徹底しなければならないことを、分かりやすい言葉に変え周知するなど後方サポートを行ってきた。

## 3. その他

通常業務に加え新しい業務が増えたものの、本年度は多くの計画を求めず、質の高さと効率を求めた結果、少人数でも成果を見い出せたことから、今後も継続できるよう努めて行く。

